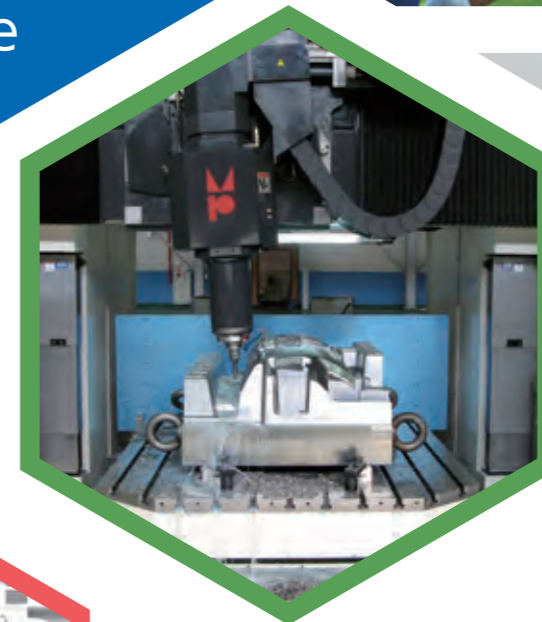




The Challenge to Promising Future

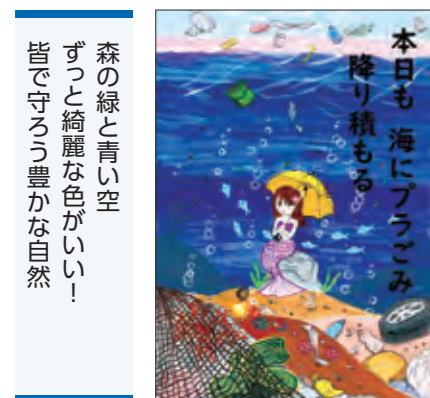


標語・ポスターの優秀作品のご紹介

東芝機械グループでは、各月間行事の一環として、標語・ポスターを広く募集しています。その中で優秀に選ばれた作品をご紹介します。

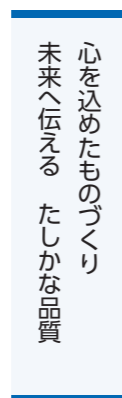
環境月間

環境保全意識の普及と啓発を図る取り組みとして、標語・ポスターの募集を行なっています。



品質月間

品質意識の高揚、製品やサービスの質向上への取り組みとして、標語の募集を行なっています。



交通安全県民運動

交通安全に対する関心と意識向上のための取り組みとして、標語・ポスターの募集を行なっています。



東芝機械株式会社

URL: <http://www.toshiba-machine.co.jp/>
〒410-8510 静岡県沼津市大岡 2068-3

全体のお問い合わせ先

総務部
TEL: (055) 926-5141 FAX: (055) 925-6501

環境関係のお問い合わせ先

グローバル生産統括部
TEL: (055) 926-5021 FAX: (055) 925-6537

本報告書の制作、印刷にあたって、次のような配慮をしています。



VOC (揮発性有機化合物) 成分ゼロの100%植物油インキを使用し、「水なし印刷」で印刷しています。



間伐に寄与する紙の使用
東芝機械グループは、静岡県の豊かな森林づくりをサポートしています。この「ふじのくに森の町内会」の紙には、林地に捨てられる間伐材を、資源として活用する費用が含まれています。



東芝機械グループCSR報告書の印刷で使用する電力1,000kwhは風力発電によるグリーン電力を利用しました。

Contents

- 2 | トップメッセージ
- 3 | 東芝機械グループの企業価値・社会価値創造プロセス
- 5 | 東芝機械グループのグローバルネットワーク/海外でのCSRへの取り組み
- 7 | 特集1 東芝機械のあゆみ
- 9 | 特集2 machiNetで応える社会課題
- 11 | 事業分野と製品紹介

CSRマネージメント

- 15 | コーポレート・ガバナンス/内部統制システム
- 15 | グループガバナンス/リスク・コンプライアンス管理
- 16 | 情報セキュリティ管理/知的財産の尊重と活用

CSRの取り組みテーマ

- 17 | CSRの取り組みテーマ
- 19 | SDGsへの取り組み

社会との共生

- 21 | お客様とのかかわり
- 21 | 品質保証
- 22 | 技術・サービス
- 23 | 調達・取引先とのかかわり
- 24 | 株主・投資家とのかかわり
- 25 | 従業員とのかかわり
- 25 | 人財育成
- 25 | ダイバーシティとインクルージョンの取り組み
- 26 | 安全と健康
- 27 | 地域社会とのかかわり
- 27 | 社会貢献への取り組み
- 28 | 教育・文化への取り組み
- 28 | 環境への取り組み

環境への取り組み

- 29 | 環境マネージメント
- 30 | 環境会計
- 30 | 環境アクションプラン
- 31 | 製品の環境配慮
- 32 | 地球温暖化防止
- 33 | 事業活動にともなう環境負荷
- 34 | 汚染防止の取り組み/化学物質管理
- 35 | 生物多様性保全への取り組み/グローバルなEMS構築
- 36 | 環境データ編
- 36 | INPUT OUTPUT グラフ

- 37 | 財務・非財務データ編
- 37 | 財務・非財務ハイライト

- 38 | 第三者意見

編集方針

東芝機械グループでは、2000年から「環境報告書」を発行し、2013年からは報告内容を企業の社会的責任に拡大し「CSR報告書」として発行してきました。

本報告書は、東芝機械グループのCSRの基本的な考え方と、2018年の取り組み実績、今後の計画をステークホルダーの皆様に提供し、ご理解いただくことを目的として発行しています。

ガイドライン：ISO26000

対象期間：2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

対象範囲：●経済性報告は東芝機械(株)、国内関係会社5社および海外子会社9社のデータです。
●環境報告は東芝機械(株)、国内関係会社5社および海外製造会社3社のデータです。

発行時期：2019年9月

会社概要

商号	東芝機械株式会社(TOSHIBA MACHINE CO., LTD.)
本社	静岡県沼津市大岡2068-3
創業	業：1938年(昭和13年)12月
設立	立：1949年(昭和24年)3月
資本金	金：124億8,400万円
従業員	数：連結：3,346名 単独：1,772名
工場	場：沼津工場 相模工場 御殿場工場 上海工場 インド工場 タイ工場
主な営業拠点	本店・支店 東京本店 千代田区内幸町2-2-2 東北支店 仙台市泉区上谷刈4-8-10 中部支店 名古屋市名東区上社5-307 関西支店 大阪市北区梅田3-4-5 九州支店 福岡市博多区榎田2-3-23

連結対象子会社：14社(海外子会社9社含む)

非連結対象子会社：8社(海外子会社)

トップメッセージ

社会・環境、ステークホルダーの皆様に必要とされ、共に価値を創る企業を目指します

はじめに

平素より、東芝機械グループへの格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

当社は、皆様のおかげで、2019年3月に創立70年を迎えることができました。私たちは創業以来、「モノづくり」を通じて社会に貢献することで進化を続けてまいりました。

今後もそこで培われた技術・開発力、QCD、営業・サービス力を基盤とした商品力を維持しながら、時代の変革やさまざまなリスクを乗り越え、お客様と共に未来を見つめて進化し、永続的に必要とされる企業を目指してまいります。

また、コーポレートガバナンスを一層充実させ、さらなる企業価値の向上を図るため、当社は監査等委員会設置会社へ移行しました。

当社グループは、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」で示された社会が抱える問題に、事業活動を通じて貢献できるよう努めることで持続可能な社会の発展に寄与し、豊かな地球環境を守るべく企業としての役割を果たしてまいります。

加えて、ステークホルダーの皆様のご期待やご要望に応え、信頼を得ることが必要不可欠と考え、これからもよりいっそうの企業努力を続けてまいります。

中期経営計画

東芝機械グループが2019年度からスタートした「Revolution E10 Plan」では、「機械メーカーの総合力を最大限活かして成長し続けること」を基本指針とし、早く、激しく変化する時代において勝ち残り、成長するために従来の考え方や仕事の進め方を大きく変えて、収益力向上への変革を目指してまいります。

その上で、体質改善、商品力の共有と強化、成長投資による企業価値の向上に向けた諸施策に取り組み、「新たな産業を創造する力」でお客様と共に価値を創る「価値共創メーカー」へと進化してまいります。

コンプライアンス・内部統制

東芝機械グループは、「東芝機械グループ経営理念」に基づき事業活動を進めるにあたって、「東芝機械グループ行動基準」を定め、コンプライアンス機能と内部統制機能の構築と強化を図ってまいりました。コンプライアンスは経営の大前提であり、国内・海外における企業活動はすべて法令・社内規程・企業倫理などの社会のルールに従って遂行いたします。

私たちがルールを遵守することは、ステークホルダーの皆様の安心・安全・安定の確保につながります。全従業員がこのことに留意し、将来にわたって社会に必要とされる企業であり続けます。

また、高い倫理観と遵法意識の醸成を図るため、従業員教育、内部統制機能の充実に努めてまいります。

グループガバナンスにおきましては、東芝機械が中心となり、国内外各関係会社を含めたグループ力を引き続き強化し、グループ全体での経営管理を継続して推進してまいります。



東芝機械株式会社
代表取締役社長 最高執行責任者
社長執行役員

三上高弘

東芝機械グループの企業価値・社会価値創造プロセス

東芝機械グループは、国内外の法令や社会規範の遵守はもとより、「経営理念」「行動基準」に基づく内部統制機能の強化、公正かつ適切な事業活動の展開、安全・安心、高付加価値の商品を提供することで社会に貢献し、企業価値の向上につなげています。

また、自社グループの持つ技術力・開発力を発揮して豊かな価値を創造することでお客様のニーズにお応えし、将来にわたり発展し続ける「真のグローバルカンパニー」の実現を目指してまいります。

当社グループ製の機械から生まれる製品

東芝機械グループ製の、各種機械から生まれる製品・サービスで、世界の人々の生活や文化の向上に貢献します。

当社グループ製の機械から生まれる製品(一例)

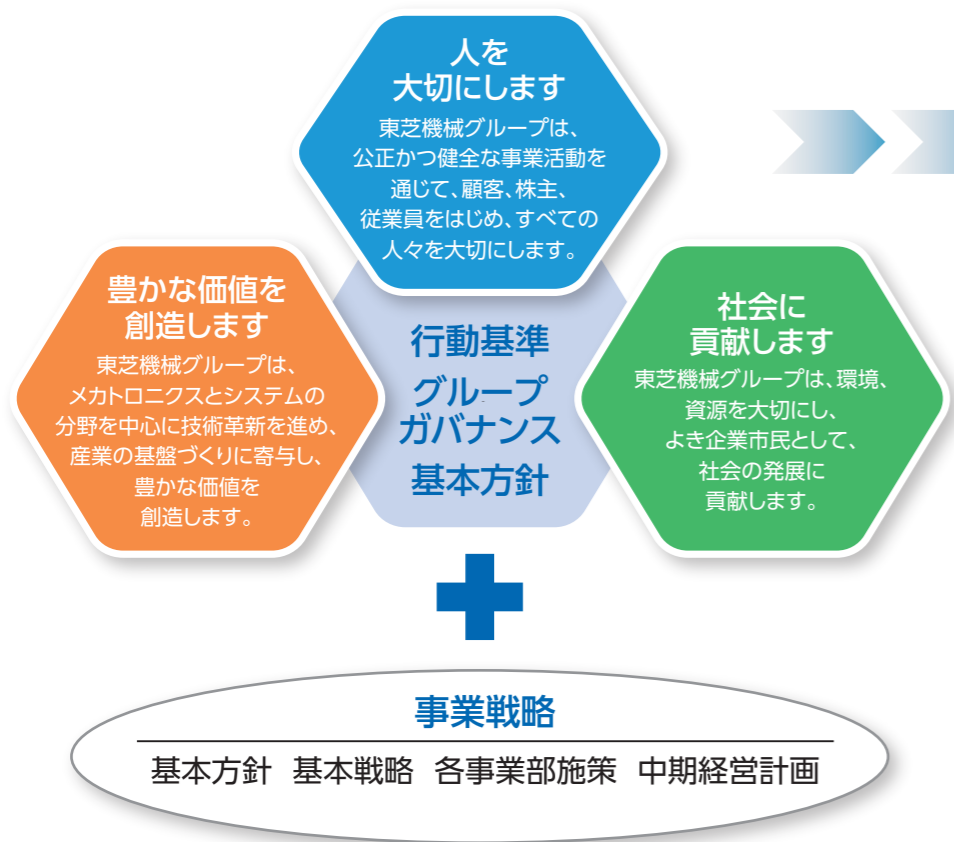
航空機・高速鉄道・自動車・エネルギー関連・医療機器・携帯端末 など



新たなニーズや期待

東芝機械グループ経営理念

東芝機械グループは、人間尊重を基本として、豊かな価値の創造により、産業の基盤づくりに寄与し、世界の人々の生活・文化の向上に貢献します。



東芝機械グループの技術力・商品

東芝機械グループの持つ技術力・開発力で、豊かな価値を創造し、創出する各種機械・サービスが、産業の基盤づくりに寄与します。

8つの技術プラットフォーム

1. 匠の加工・組立・測定技術
2. 加工機・成形機の設計技術
3. カスタマイズ技術
4. 材料技術
5. 制御・メカトロ・IoT技術
6. 摺動と回転
7. 金型起点の成形加工技術
8. ナノ加工技術

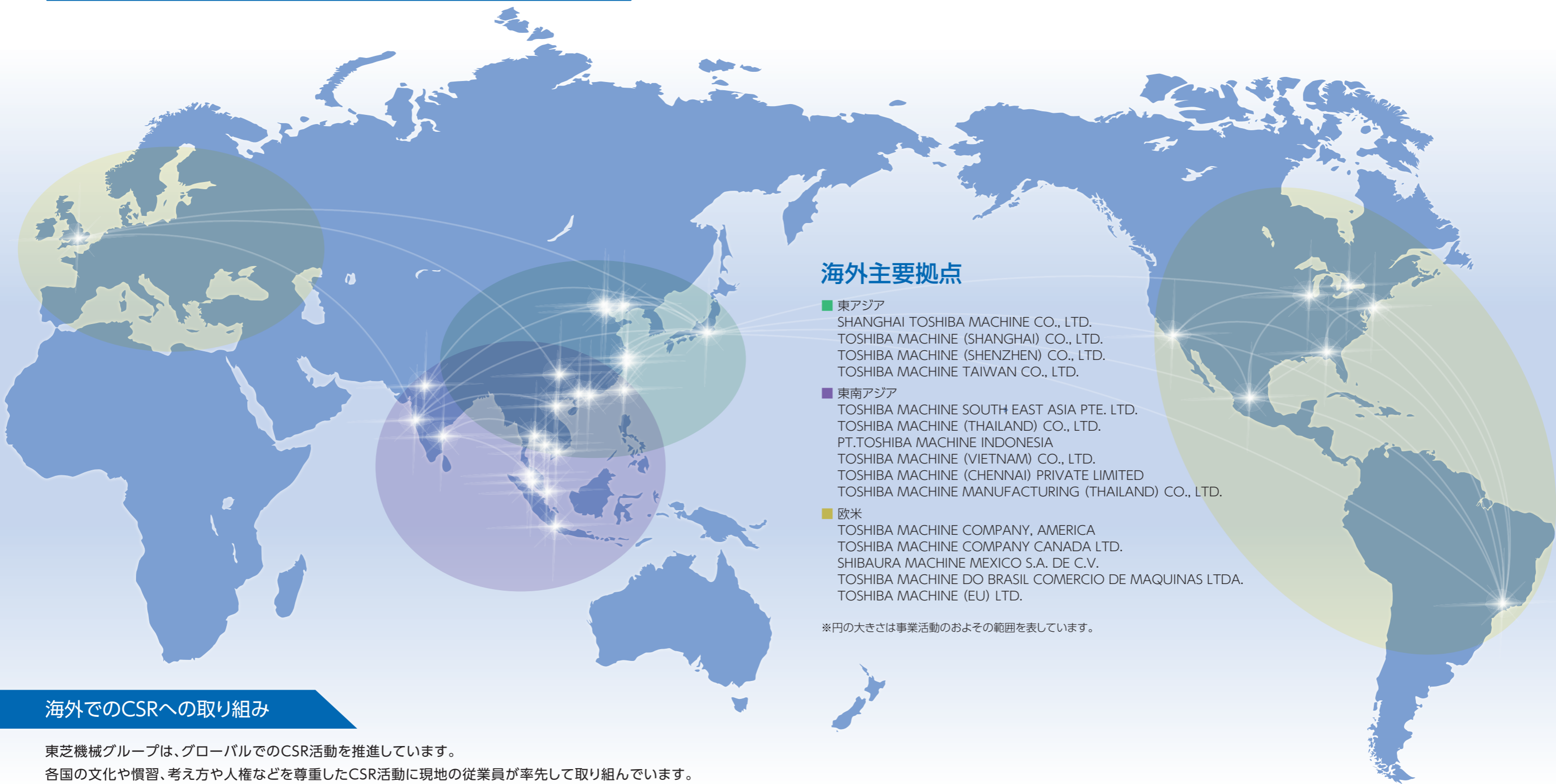
東芝機械グループの商品・サービス



お客様と社会の持続可能な発展に貢献



東芝機械グループは、機械メーカーの総合力を最大限生かして、世界中で必要とされる製品の「モノづくり」に携わり、お客様の事業発展を支えると同時に、世界の人々の生活の向上と、より豊かな地球環境実現のための活動に取り組んでいます。



海外主要拠点

- 東アジア
 - SHANGHAI TOSHIBA MACHINE CO., LTD.
 - TOSHIBA MACHINE (SHANGHAI) CO., LTD.
 - TOSHIBA MACHINE (SHENZHEN) CO., LTD.
 - TOSHIBA MACHINE TAIWAN CO., LTD.
- 東南アジア
 - TOSHIBA MACHINE SOUTH EAST ASIA PTE. LTD.
 - TOSHIBA MACHINE (THAILAND) CO., LTD.
 - PT.TOSHIBA MACHINE INDONESIA
 - TOSHIBA MACHINE (VIETNAM) CO., LTD.
 - TOSHIBA MACHINE (CHENNAI) PRIVATE LIMITED
 - TOSHIBA MACHINE MANUFACTURING (THAILAND) CO., LTD.
- 欧米
 - TOSHIBA MACHINE COMPANY, AMERICA
 - TOSHIBA MACHINE COMPANY CANADA LTD.
 - SHIBAURA MACHINE MEXICO S.A. DE C.V.
 - TOSHIBA MACHINE DO BRASIL COMERCIO DE MAQUINAS LTDA.
 - TOSHIBA MACHINE (EU) LTD.

※円の大きさは事業活動のおよその範囲を表しています。

海外でのCSRへの取り組み

東芝機械グループは、グローバルでのCSR活動を推進しています。各国の文化や慣習、考え方や人権などを尊重したCSR活動に現地の従業員が率先して取り組んでいます。



起工式



インド工場

工場周辺道路舗装

画像 ©2018 DigitalGlobe, 地図データ ©2018 Google



舗装後

インドの工場周辺道路が傷んで凸凹が発生し、周辺住民の二輪車も凸凹を避けて蛇行運転を余儀なくされていました。そこでこの状況を改善するため、最寄りの主要道路から分岐した工場周辺道路の再舗装に協力しました。この道路は、再生したプラスチックごみをアスファルト舗装に活用する環境に優しい技術を用いており、耐水性や、耐荷重性にも優れていることがわかっています。



中国では、お客様向けの技術支援(鑄造条件に合わせた運用方法、メンテナンス、設備操作などの研修)を行ない、お客様のモノづくりに貢献するとともに、お客様の満足度の向上を図りました。



タイでは、従業員向けにフォークリフトの訓練を行ないました。受講生は安全にフォークリフトを使用するために労働安全衛生法や、フォークリフトの使用方法を学びました。



時代の変遷に対して

柔軟に対応し培った技術で

顧客の要望に答えてきた

当社だからできること。

さらなる進化へ……。

軍需から
戦後復興へ

1938

芝浦工作機械 設立

国の特別法である「工作機械製造事業法」を受け、工作機械製造を強化するため、芝浦工作機械が芝浦製作所(現東芝)の子会社として設立された。



12mライフル盤



沼津工場



鶴見工場

1949

繊維機械 生産

戦後復興産業として当時盛んになっていた繊維産業を後押しすべく、培った技術を用いて繊維機械を生産。民間輸出再開で輸出された日本の高品質の繊維製品は海外で人気の商品となった。



繊維機械

高度経済成長
(重厚長大)

1952

押出成形機 初号機完成

1953

ダイカストマシン(国産初の油圧駆動)完成
親歯車ホブ盤完成

1956

射出成形機(プリプラ方式)初号機完成

高度経済成長期を迎え、時代は「重厚長大」へ。当社はこの「重厚長大」のモノづくりを支えるべく、顧客のニーズに応え、さまざまな加工を可能にする製品を生み出していく。



押出成形機
65mm単軸機



親歯車ホブ盤



ダイカストマシン
250HT



射出成形機
20-450S

1961

(株)芝浦機械製作所が芝浦工機(株)を吸収合併、「東芝機械株式会社」と商号変更



1930~1940年代

- 1937 日華事変(日中戦争)
- 1938 工作機械製造事業法
- 1941 太平洋戦争
- 1945 第二次世界大戦終戦
- 1949 民間輸出再開



1950~1960年代

- 1951 サンフランシスコ講和条約
- 1953 日本一の水力発電機が完成
- 1955 石炭から石油へ
- 1960 カラーテレビ販売開始
- 1964 東京五輪開催



不況を乗り越え
海外進出へ

1974

アメリカ現法(TMA)設立

1977

ブラジル現法(TOSMEC)設立

日本にとどまらず、海外へ進出し拡大していく。

1977

(株)東芝からNC装置(TOSNUC)、電子ビーム描画装置(EBM)を移管



電子ビーム描画装置(EBM)

1978

シンガポール現法(TMS)設立

1981

食品機器 生産

オイルショック等の不況には顧客にとってより身近なビールサーバー等の食品機器の生産にも取り組んだ。



ビールサーバー

1988

カナダ現法(TMC)設立

1989

欧州現法(TME)設立

タイ現法(TMT)設立

台湾現法(TMTC)設立

世界進出は製品の需要に応じて一部の地域にとどまらず、より広範囲にネットワークを拡大。

加工から成形へ
ナノテク、光へ

1996

(株)東芝からスカロロボット業務移管



スカロロボット(移管当時)

1999

本社機構を東京から沼津へ移転

バブル崩壊を受け、本社を東京から沼津(静岡県)に移転する。



2002

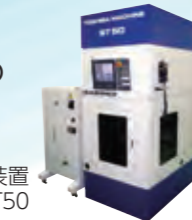
初の海外生産拠点(CTM)設立

海外での生産拠点として初の工場を上海に建設。



2005

微細転写装置の開発



微細転写装置
初号機ST50

先端技術が
つながる社会
IoT+mへ

2012

インドの射出成形機企業を子会社化、(TMIC)設立
タイに海外生産拠点(TMMT)開設



TMIC



TMMT

2012

インドネシア現法(TMID)設立

2013

ブラジル現法(TMBR)設立

2017

(株)東芝が保有していた当社株式を買い取り、東芝グループ離脱

2017

IoT+m 公表

単一事業では成し遂げない、機械メーカーの総合力を生かしたご提案へ。

2019

新社名 公表

2020年4月より

“芝浦機械株式会社”へ

2010~現在

- 2012 東京スカイツリー開業
- 2014 リニア中央新幹線が着工
- 2015 COP21で「パリ協定」を採択



machiNetで応える社会課題

東芝機械では、ものをネットワークにつなぐIoT (Internet of Things) を独自コンセプト“**IoT+m**”として展開し、生産現場の設備に活用することで、モノづくりの現場が抱えるさまざまな課題を解決していきます。

「**IoT+m**」の“**m**”は、manufacturing、machinery、maintenance、monitoringなど当社がIoTで機械の付加価値向上を目指したい言葉の多くが“**m**”で始まっていることから命名しています。また**IoT+m**のコンセプトを実現するための基盤となるプラットフォームを「**machiNet** (マシンネット)」と命名し、開発を進めています。

machiNetの目指す姿と進め方

machiNetでは、お客様の課題を「人材不足を補うための生産性向上」、「突発的な機械の停止」、「生産拠点の分散」、「品質向上・安定化」の4つに区分しています。課題により解決の方針も異なりますので、所有する手法を適材適所で使い分けています。

machiNetの目指す姿は、製造現場における事象の変化をIoTによってデジタル化することにより機械を知能化、スマートマシンを実現します。次に、集めた情報を活用してスループット(単位時間あたりの処理能力)を最大化することで、製造工程をスマート化し、スマートマニュファクチャリングを実現します。そして、スマート化された製造工程で集められた情報を上位システムと連携することで生産が最適化され、進化していきます。これにより、工場がスマート化され、スマートファクトリーを実現していきます。

“m”ではじまるキーワードにフォーカスしたIoTコンセプト



machiNetによるCSRへの対応

わが国のモノづくりの現場では、従来生産管理をはじめ、仕上げに至るまでを人の手により厳しく管理することで、世界最高レベルの品質を生み出してきました。しかし現在では、少子高齢化により労働人口が減り、作業者の高齢化も深刻になってきたことでジャパンプランドが危機に瀕しています。当社では、**IoT+m**のコンセプトにもとづく**machiNet**を展開することにより、労働環境を改善していきます。また将来的には、AI(人工知能)を活用することで、省力化・省人化をさらに加速させていくことでこれらの問題に歯止めをかけ、日本の競争力を維持・向上させていきたいと考えています。

社内実証例とその効果

東芝機械の自社工場には、機械の生産のため多数の工作機械が社内設備として日々稼働しています。これらの工作機械は、大型で特殊な機械が多いため、万が一故障すると復旧まで相当な時間がかかり、生産停止により納期遅延につながるリスクがあります。

machiNetには故障を未然に防ぐためのソリューションとして、TMスマートセンサという製品があります。TMスマートセンサは、加速度センサと温度センサおよびマイクロコンピュータが内蔵されており、データをパソコンに無線で送ることのできる比較的安価なデバイスです。

当社では、このTMスマートセンサを設備機械の要所所に複数配置し、機械の故障につながるような異常な状態をいち早く検知して、機械が故障して生産停止する前に計画的な保守を実施することで、生産への影響がないよう対策を行なっています。また、従来は、機械のオペレータの勘と経験で保守タイミングを決めていたため、人により判断基準がバラついたり、巡回点検の手間などもかかっていましたが、TMスマートセンサによる保守により、定量的な判断と巡回点検の手間等の労力を削減しつつ、保守にかかる費用も削減できるという結果が得られています。



社内の生産現場の意見紹介

予防保全の実証

TMスマートセンサを大型の工作機械に設置して、予知保全の実証を行なっています。本来であれば部品が故障してから復旧を行なう流れですが、事前に故障の予兆を捉えることで非生産期に部品交換を行なっています。機械が止まるということは、それだけ売り上げが落ちるということですから、コスト的にも納期の安定化の面でもメリットがあります。



生産本部
沼津設備課 課長
山本 雅之 さん

工場見える化の取り組み

IoTによる設備機械の稼働監視だけでなく、ネットワークカメラを使って録画をしています。また、工場内の温度管理や電子水準器を用いて管理をしています。これによって「見れば気づく」、「気付けば動く」、「動けば変わる」という好循環が生まれ、現場の改善意欲もアップしています。



材料加工事業部
事業部長
松作 秀文 さん

お客様導入事例紹介

生産性・稼働率向上への取り組み

株式会社竹田鉄工所様はエネルギー全般、火力、水力、ガスタービン等の心臓部を数多く手掛けている企業です。現在では、風力発電機の本体、MRI・陽子線ガン治療器、航空・宇宙産業と世界最先端の分野にも進出しており設備の導入を進めています。近年の少子化で人手不足が深刻となっています。

生産性を上げる目的で、社内の稼働状況を見える化したいとの要望から**machiNet**を導入しています。新たに導入した横中ぐり盤 BTD-110を見える化システムでモニタリングしています。これにより、社外からでも機械の稼働状態が把握できるようにしています。

最近では自動車の自動運転が最終目的とされ話題になっていますが、竹田鉄工所様でも無人化を目指しています。今後は他の設備への水平展開を図り、引き続き工作機械の見える化と予知保全技術の実証、生産性向上に取り組んでいく予定です。



横中ぐり盤 BTD-110



機構部に取り付けた
TMスマートセンサ

事業分野と製品紹介

社会で、世界で、さまざまな分野のモノづくりを支え、持続可能な社会に貢献

東芝機械グループは超精密から超大型までの製品構成でお客様のあらゆるニーズにお応えし、幅広い分野でモノづくりを支えています。

創業以来、こだわり続けてきた高精度な「品質」への思いから、東芝機械グループでは、世界で一番の商品を作り続けるために社内で鋳造、機械加工を行ない、自社製品の主要部品として使用しています。

品質安定性、信頼性向上を実現するとともに豊富なキャリアによるフレキシブルなご提案で、新たな価値のある製品を生み出すことを可能にしています。

さまざまな分野の製造メーカーをお客様として、最新のテクノロジーを活用したベストソリューションを提供し、社会の皆様方の生活に貢献します。



鋳物

製造



注湯

工作機械で加工



工作機械の部品加工



ダイカストマシンの部品加工



射出成形機の部品加工

主要部品として使用

品質へのこだわりを社会へつなぐ 東芝機械グループ



さまざまな先進の産業装置を開発・製造する

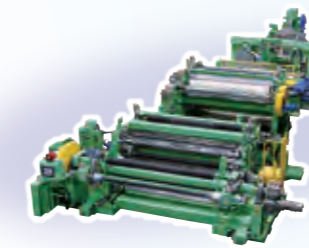
8つの技術プラットフォーム

基盤となる8つの技術プラットフォームを背景に、さまざまな先進の産業装置を開発・製造。長年培った最適ソリューションを提供します。



■ 工作機械

幅広い産業に寄与するマザーマシン*です。世界中で活躍する高品質・高生産性な機械です。中大型の部品加工や、摩擦攪拌接合 (FSW) で、自動車の未来に貢献しています。
*マザーマシン: 機械を作るための母なる機械



■ 押出成形機

樹脂粒子を溶かしてロールで冷却、クリップ装置で延伸し多層構造のシート・フィルムを成形する機械です。幅広いニーズに応える豊富な製品群を用意しています。リチウムイオン電池用セパレータフィルムで、EV車、PHV車の普及に貢献しています。



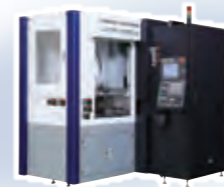
■ ダイカストマシン

金属材料を溶かして金型に流し込み、固めて金属製品を製造する機械です。自動車部品の軽量化に最大限の強みを発揮します。大面積部品・高強度部品をアルミ合金で軽量化対応し、燃費向上に貢献しています。



■ 射出成形機

プラスチック製品を成形する機械です。超精密部品から大型部品までお客様が満足するフレキシブルな提案を行なっています。繊維強化樹脂で自動車部品の軽量化に貢献しています。



■ 超精密加工機

光学部品等を成形する金型をナノレベルで加工する機械です。自社製空気静圧主軸の高速、超低振動回転による加工で、世界最高精度の超精密加工技術を提供し、ヘッドライトや車載カメラの進化に貢献しています。



■ 産業ロボットやIoTによる作業支援

産業用ロボットは、用途によって選べる豊富な種類と組み合わせで、さまざまな産業の省力化・自動化・効率化に貢献しています。また、既存の機械にセンサを取り付けることにより、IoTを活用した工場の監視・保守・製造を実現し、生産性向上に貢献しています。



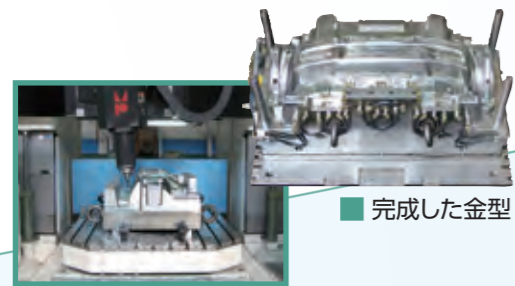
machiNetは商標出願中です。

より良い地球環境の実現を目指して

東芝機械グループは、「モノづくり」の会社として、お客様や社会、環境に配慮した製品の提供を目指しています。
 例えばダイカストマシンでは、電動型締の採用による高効率な生産の実現、消費電力の削減による環境負荷低減に貢献、射出成形機では、自動車の軽量化に役立つ樹脂部品を成形し、省エネルギー・低燃費等によるCO₂排出量の低減に貢献しています。
 機能や品質が優れていることはもとより、より環境負荷の少ない環境調和型製品の開発やサービスに積極的に取り組んでいます。

世界の人々の生活・文化の向上に貢献します

東芝機械グループ製の機械から生まれる製品で、世界の人々の生活や文化の向上に貢献します。



■ 完成した金型

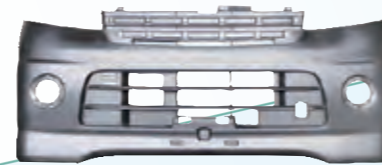
■ フロントバンパーの金型加工



■ 液晶パネル用部材の成形



■ ブレーキキャリパーの成形



■ 金型で成形したバンパー部品



■ 液晶パネル用部材



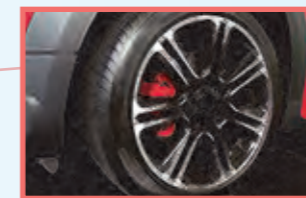
■ ダイカスト成形したブレーキキャリパー



■ 自動車(内装/外装)



■ テレビ



■ 自動車(ブレーキキャリパー)

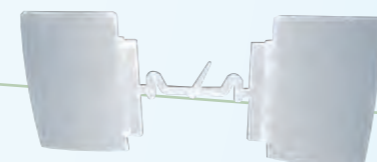
お客様による製品の活用



■ 自動車用ランプの金型加工



■ ヘッドアップディスプレイの成形



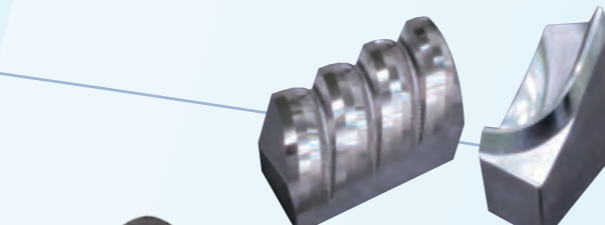
■ ヘッドアップディスプレイ成形品



■ 自動車の速度表示ナビ機能



■ 部品組立



■ 自動車用ランプの金型



■ 自転車サドル



■ ヘッドランプ



■ 自転車

さまざまな形で市場と社会に貢献

産業の基盤づくりに寄与します

東芝機械グループで創出する各種機械・サービスが、産業の基盤づくりに寄与します。



CSR マネジメント

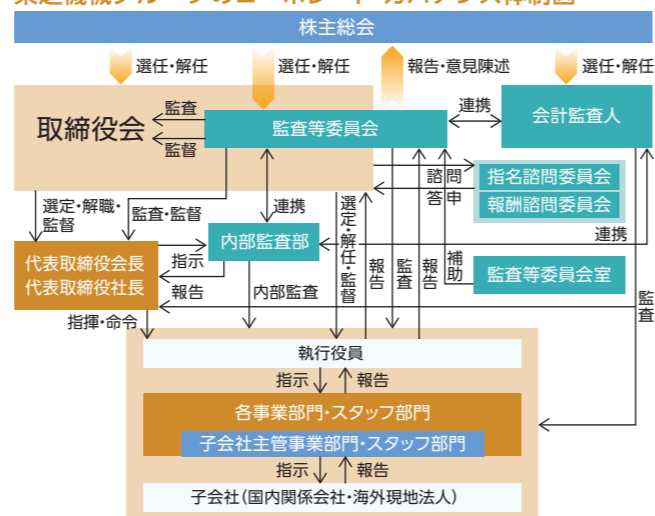
東芝機械グループは『東芝機械グループ経営理念』のもと、さまざまな事業活動を行なうために、役員、従業員が遵守すべき『東芝機械グループ行動基準』を制定するとともに、社会的責任を果たし企業価値を継続的に向上させるため、内部統制、グループガバナンス、リスク・コンプライアンスなどのシステムを構築し、透明性の高い経営体質の確保を目指しています。



コーポレート・ガバナンス

当社は『内部統制基本方針』に基づき適切な内部統制システムを整備し、取締役の指名や監査等委員でない取締役の報酬に関する透明性・公正性を高めるべく、「指名諮問委員会」および「報酬諮問委員会」を設置し、執行役員制度の運用により経営と執行の分離、経営責任の明確化、経営意思決定および業務執行の効率化・迅速化を実現することで、透明性の高いコーポレート・ガバナンス体制の構築をしております。また、当社は、監査等委員である取締役が会計監査人および内部監査部門と連携して、経営を監視する機能を整えております。

東芝機械グループのコーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システム

東芝機械グループは、当社グループ経営理念のもと、適正な業務執行のための体制を整備し、運用していくことが重要な経営の責務であると考え、『内部統制基本方針』を定め、当社グループの業務の適正を確保するための体制を構築・運用しています。また、内部監査部やスタッフ部門が独自に実施する内部監査機能により、内部統制の適正な運用をモニタリングし、内部統制システムの強化および改善に取り組んでいます。

グループガバナンス

東芝機械グループは、適切なグループ内部統制システムを構築し、東芝機械グループの経営効率を高め、グループ経営力を強化するとともに、リスク管理、法令遵守等のリスク・コンプライアンスマネジメントを推進することにより、グループの企業価値の最大化を図ることを目的に『東芝機械グループガバナンス基本方針』を定め、グループガバナンスの強化および改善に取り組んでいます。

リスク・コンプライアンス管理

東芝機械グループは、その事業活動を行なうにあたり、生命・安全と法令・社会規範・倫理の遵守（コンプライアンス）を最優先とすることを基本に、経営理念および『東芝機械グループ行動基準』を定め、日常の事業活動の行動規範としています。また、事業活動を行なうに際しての不確定要因（リスク）を積極的にコントロールし、透明性の高い経営体質を確保するための体制（リスク・コンプライアンスマネジメント体制）を構築、推進および維持することを目的に、『リスク・コンプライアンスマネジメント規程』を定めています。

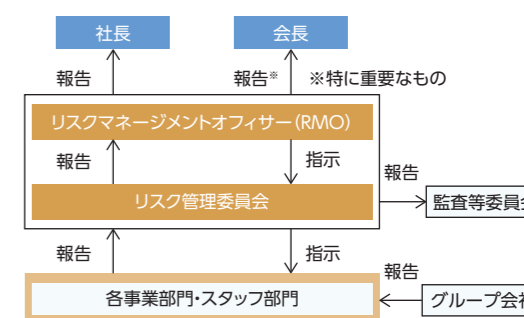
また、グループ会社従業員、派遣社員等も対象とした「内部通報制度」や、取引先を対象とした「取引先通報制度」を設置し、通常のルートでは報告されにくい機微なリスク情報についても収集を行なえる体制を導入・運用しています。

リスク・コンプライアンスマネジメント体制

東芝機械グループは、リスク・コンプライアンスマネジメント体制の具体的な構成要素として、リスク・コンプライアンスマネジメントをつかさどるリスクマネジメントオフィサー（RMO）を任命するとともに、「リスク管理委員会」を設置し、定期的を開催しています。

各事業部門・スタッフ部門では、日常の管理活動の中でリスク予知、予防活動および自己点検等のモニタリングを行なっています。

リスク・コンプライアンスマネジメント体制



東芝機械グループ行動基準

東芝機械グループは、『東芝機械グループ経営理念』に基づき事業活動を行なうにあたって、生命・安全とコンプライアンス（法令、社会規範、倫理の遵守）を最優先することを基本に『東芝機械グループ行動基準』を定め、一人ひとりが遵守すべき具体的な行動を示し運用しています。

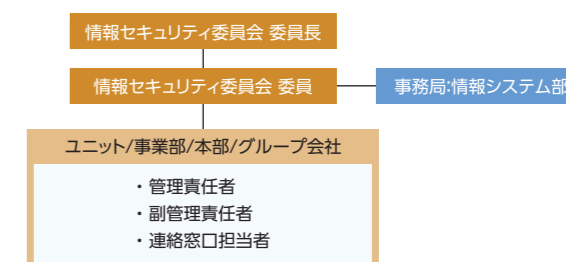
東芝機械グループ行動基準

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------------------|
| 1. 人権の尊重 | 8. 環境活動 | 15. 広告活動 |
| 2. お客様の尊重 | 9. 輸出管理 | 16. 職場環境の整備 |
| 3. 調達活動 | 10. 反社会的勢力の排除 | 17. 情報セキュリティ |
| 4. 生産・技術活動および品質活動 | 11. 技術者倫理の遵守 | 18. 会社財産の保全・利益相反行為の禁止 |
| 5. 営業活動 | 12. 知的財産権の尊重 | 19. 社会とのかかわり |
| 6. 独占禁止法・官公庁取引規制等の遵守 | 13. 適正な会計 | |
| 7. 贈賄の禁止 | 14. 広報活動 | 適用範囲・推進体制等 |

情報セキュリティ管理

東芝機械グループでは複雑化・巧妙化するサイバー攻撃などに対応できるよう情報資産へのセキュリティ強化施策を行なっています。情報セキュリティポリシーを全社規程として制定し、さらに、情報セキュリティ委員会を設置することで全社的な推進体制のもと、規程の改訂や自主監査の活動を推進しています。また、情報セキュリティや個人情報保護に関する日常的に守るべきルールを定期教育として、国内・海外のグループ会社従業員や派遣社員へ実施し、情報セキュリティ意識の向上に努めています。

情報セキュリティ管理体制



知的財産の尊重と活用

東芝機械グループは、特許法、著作権法その他知的財産権に関する法令を遵守します。また、知的活動の成果を知的財産権で保護・活用するとともに、第三者の知的財産権を尊重します。商品の開発時には、先行技術調査、発明発掘活動を行ない、事業競争力強化のため、積極的に知的財産権を獲得しています。その結果、国内外で2,000件以上の特許権・商標権等を保有しています。今後さらに知的財産活動を活性化させ、企業価値の向上に努めます。

CSRの 取り組みテーマ

東芝機械グループは、自然に恵まれた静岡県東部に主要な生産拠点を有し、また、世界中の国・地域で事業活動を展開しています。豊かな地球環境を未来に残し、社会の持続可能な発展に貢献するため、私たちを取り巻くお客様、株主、取引先、従業員、地域社会の方々等、世界中のステークホルダーの皆様への関心と配慮を保ちながら、CSR活動を推進してまいります。

項目	取り組みテーマ	2018年度の計画	2018年度の取り組み	評価	2019年度の計画	ISO26000の中核課題	掲載ページ
 お客様とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ● 技術 ● 品質・安全 ● サービス 	● 品質マネージメントシステム(QMS)の向上	● ISO9001:2015年版改定完了、国内3事業部・海外3工場の監査実施	○	● 品質向上に向けた品質機能展開の活動推進	環境消費者課題	P21~
		● IoT+mプラットフォームの中核となる見える化ツール(ダッシュボード)の商品化	● 日本国際工作機械見本市に出品し客先モニター実施	△	● IoT共通プラットフォーム(machiNet)の開発および商品化		
		● 国内外顧客への技術および製品情報提供	● 最新技術と新製品を紹介した「技報」を発行	○	● 国内外顧客への技術および製品情報提供		
 調達・取引先とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境保全を考慮した調達 ● 適法な調達 ● 反社会的勢力との取引防止 	● 新EDIシステム取引先社数向上	● 新規取引先を含め約50社を登録	○	● グリーン調達の推進	公正な事業慣行	P23
		● 調達関係法令教育の実施	● 調達適法教育(国内グループ会社を含め269名参加)	○	● 海外拠点に対するCSR調達活動の調査継続		
		● 海外拠点に対するCSR調達活動の調査継続	● 4拠点で自己評価プログラムによる調査実施	○	● 調達取引先へのCSR方針説明		
 株主・投資家とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ● 適時開示 ● コミュニケーションの向上 ● 評価の確保 	● 株主・機関投資家との対話の実施	● 機関投資家との対話を実施(119件)	○	● 株主・機関投資家との対話の実施	組織統治	P24
		● ホームページ(以下HP)投資家情報コンテンツの拡充	● 業界傾向推移情報の内容充実	○	● 情報にアクセスしやすいHPへのリニューアル		
		● 情報閲覧方針の策定	● 情報閲覧方針の策定、HP公開	○	● HPの掲載内容の充実		
 従業員とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイバーシティ ● 人財育成 ● 安全・健康管理 	● より実践的なグローバル人財育成教育を実施	● 海外現法研修の実施	○	● 若手に注力した教育の実施	人権労働慣行	P25~
		● ダイバーシティへの対応	● 多様な人財の活躍の推進、育児・介護に関する制度の対応および推進	○	● ダイバーシティへの対応		
		● 従業員の意識高揚を図るための安全・健康教育の実施	● 安全特別教育等9回実施、延べ410名参加、健康教育(階層別・職場別等)25回実施、延べ779名参加	○	● 安全・健康で、多様な人財が活躍できる組織風土づくり		
 地域社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会貢献 ● 技術教育への支援 ● 地域との共存 	● 各種教育活動の実施	● モノづくり人材教育、職業体験の実施	○	● 各種教育活動の実施	コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展	P27~
		● ボランティア、福祉活動の実施	● 献血、TABLE FOR TWOなどの活動を実施	○	● ボランティア、福祉活動の実施		
		● 地域、行政への活動協力	● (公社)静岡県労働基準協会連合実施の資格取得事業への協力	○	● 地域、行政への活動協力		
		● 工場周辺美化活動実施	● 工場周辺美化活動実施(10拠点1116名参加)	○	● 工場周辺美化活動実施		
		● 外部団体環境活動参加	● 外部団体の環境活動行事への参加(9団体)	○	● 外部団体環境活動参加		
 環境への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境マネージメントの強化 ● 東芝機械グループの環境負荷低減 ● 地球温暖化防止 ● 汚染防止 	● 環境マネージメントシステムの有効活用	● 環境マニュアル改訂(2018.12)	○	● 社会への環境貢献度拡大アイテム洗い出し	環境	P29~
		● 海外拠点の環境管理レベル向上およびキーマン環境教育	● 化学物質管理が進展したものの不十分	△	● SDGsの環境に関連したゴールへの取り組み		
		● 社有車および自家用車における環境負荷低減	● エコカー導入台数36台、導入率36.3%ノーカーデーを2日間実施	○	● 社有車および自家用車における環境負荷低減		

SDGsへの取り組み

当社では豊かな地球環境、豊かな社会等の持続を
目指し、企業としての役割を果たすため、SDGsで示された
内容を理解し、その目標達成のために活動しています。



持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて

東芝機械グループは豊かな地球環境・社会の持続を旨とし、グローバル企業
としての役割を果たしてまいります。国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」で
示された社会が抱える問題に、事業を通じて貢献できるよう努めます。

当社の取り組み

SDGs目標	主な施策の方向性	掲載項目・頁	SDGs目標	主な施策の方向性	掲載項目・頁	SDGs目標	主な施策の方向性	掲載項目・頁
1 貧困をなくそう	海外生産拡大で地域を活性化	<ul style="list-style-type: none"> 東芝機械グループのグローバルネットワーク(P5,6) 地域社会とのかかわり(P27) 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	HV、EV車普及への貢献 環境配慮型製品の売上高90%以上 CO ₂ 削減 再生可能エネルギーの利用拡大 スマートファクトリー	<ul style="list-style-type: none"> お客様ニーズに応える進化形製品群(P11) リチウムイオンバッテリー用セパレータフィルム製造装置の製造 環境への取り組み(P30) 製品の環境配慮(P31) 空調の省エネ化(富士山の地下水の有効活用) TV会議の活用 	12 つくる責任 つかう責任	環境配慮型製品の売上高90%以上 CO ₂ 削減、廃棄物削減、 化学物質削減	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産の尊重と活用(P16) 調達・取引先とのかかわり(P23) 環境への取り組み(P29)
2 飢餓をゼロに	海外生産拡大で地域を活性化	<ul style="list-style-type: none"> 東芝機械グループのグローバルネットワーク(P5,6) 地域社会とのかかわり(P27) 	8 働きがいも経済成長も	海外生産拡大で地域を活性化 従業員人財育成	<ul style="list-style-type: none"> 企業価値・社会価値(P3) お客様ニーズに応える進化形製品群(P11) 多様な人材が活躍できる職場づくり(P25) 従業員とのかかわり(P25) TV会議の活用 	13 気候変動に具体的な対策を	BCP対策 ECP商品の開発・販売促進	<ul style="list-style-type: none"> 製品の環境配慮(P31) 地球温暖化防止(P32) 再生エネルギーの活用
3 すべての人に健康と福祉を	品質保証 安全と健康	<ul style="list-style-type: none"> 製品安全への取り組み お客様とのかかわり(P21) 従業員とのかかわり(P25) 地域社会とのかかわり(P27) 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)協力の 金属3D造形技術開発 海外生産拡大で地域を活性化 製品の長命化	<ul style="list-style-type: none"> 物理発泡成形可能な射出成形機の製造 お客様ニーズに応える進化形製品群(P11) IoTの推進 調達・取引先とのかかわり(P23) レトロフィット事業の実施 	14 海の豊かさを守ろう	マイクロプラスチック 問題解決への貢献 新素材成形技術の開発 身の回りの使用商品見直し	<ul style="list-style-type: none"> 物理発泡成形可能な射出成形機の製造 手洗い洗剤更新 使い捨て廃プラ削減
4 質の高い教育をみんなに	モノづくり人材育成教育 社内教育体制の強化 地域社会の教育支援実施 海外の教育支援実施	<ul style="list-style-type: none"> 技術・サービス(P22) 人財育成(P25) 地域社会とのかかわり(P27) 環境への取り組み(P29) 	10 人や国の不平等をなくそう	多様な人材の活躍推進 公正な人事制度 公正な取引	<ul style="list-style-type: none"> トップメッセージ(P2) CSRマネジメント(P15) ハラスメント窓口の設置 従業員とのかかわり(P25) 地域社会とのかかわり(P27) 	15 陸の豊かさを守ろう	生物多様性対応	<ul style="list-style-type: none"> トップメッセージ(P2) CSRマネジメント(P15) 地域社会とのかかわり(P27)
5 ジェンダー平等を實現しよう	多様な人材が活躍できる 職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 従業員とのかかわり(P25) 	11 住み続けられるまちづくりを	水・大気等の環境測定 (芝浦セムテック株) 自治体・各種団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会とのかかわり(P27) 環境への取り組み(P29) 事業活動に伴う環境負荷についてのデータの収集 	16 平和と公正をすべての人に	輸出管理 公正な取引	<ul style="list-style-type: none"> トップメッセージ(P2) CSRマネジメント(P15)
6 安全な水とトイレを世界中に	水循環 環境調査製品の販売	<ul style="list-style-type: none"> 富士山の地下水の有効活用 下水道濃度計販売 (芝浦セムテック株) 	17 パートナリシップで目標を達成しよう			17 パートナリシップで目標を達成しよう	外部の取り組み・活動への積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会とのかかわり(P27)

工場全体での取り組み

富士山の地下水の有効活動

50年以上前から、富士山からの地下水を利用した空調省エネ・効率化システムを導入し、以降も運転方法の継続的改善に取り組んでいます。

さらに県の研究機関で地下水熱利用の導入例としても取り上げられています。こうした取り組みが認められ、2017年度静岡県知事褒賞を受賞しました。



開発分野での取り組み

物理発泡成形可能な射出成形機の製造・開発

プラスチックが環境にもたらす負荷が大きく取り上げられている中、当社ではプラスチックの加工性や量産性などの利点を考慮し、環境にやさしい新素材として植物由来のCNF(セルロースナノファイバー)や生分解性プラスチックの基礎研究を行なうことで環境負荷低減を目指しています。



また、新素材を成形可能な射出成形機の開発にも取り組んでいます。

サービス事業での取り組み

レトロフィット事業の実施

当社では、社内で実施していたレトロフィットを1970年代頃から事業として展開しています。現在、大型機のレトロフィットの引き合いは以前に増して増加傾向にあります。地球環境保全を旨とした省資源・リサイクルに貢献するレトロフィットへのニーズは今後さらに増えると考えられます。

当社は、これからも継続して電気品等の更新による機械の延命や自動化装置追加等を行ない、お客様の機械の付加価値向上を実施していきます。



沼津工場にてレトロフィットを実施した機械



社会との共生

お客様とのかかわり



お客様に満足していただける製品やサービスを提供するため、「製品の安全・品質」だけでなく、「アフターサービス」や「企業イメージ」など全般にわたりグループ全体による標準化・改善を積極的に進めています。

東芝機械グループは、経営理念に基づき、さまざまなステークホルダーの皆様との信頼関係を築きながら、公正・誠実で透明性の高い事業活動を目指します。



品質保証

品質方針の設定

毎年、『東芝機械グループ品質方針』を定め、お客様に信頼していただける製品・サービスの提供に努めています。

2018年度東芝機械グループ品質方針(一部抜粋)

顧客満足最優先の活動

お客様の潜在的・顕在的要求を的確にとらえ分析し、お客様の満足を最優先とした継続的な改善活動に努めます。

営業、技術、製造、サービス品質の向上

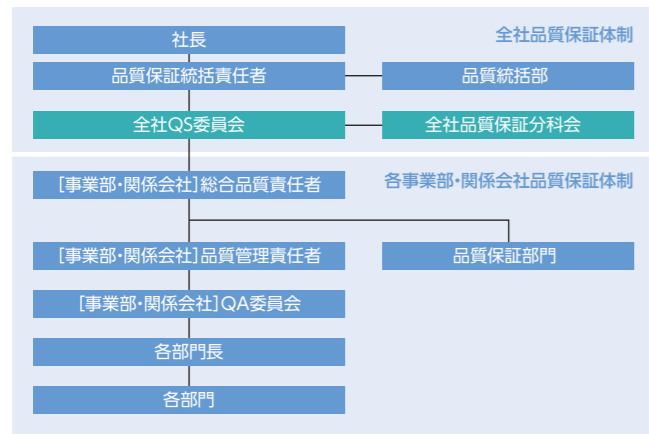
「後工程はお客様の考えに基づき、全ての人、全ての部門で、自ら全ての工程を管理し、その仕組みとやり方の改善を進め、仕事品質の向上を図ります。

法令・規則の遵守

製品品質および製品安全に関する法令および規則などの要求事項を常に把握し、遵守します。

品質保証体制

ブランドの維持向上のため、品質統括部を設置し、統制と企画を推進しています。また、安全・品質に関して、全社QS (Quality & Safety) 委員会にて適切な処置を行なっています。



品質向上に向けた取り組み

計画の進捗結果 ○

品質マネジメントシステム(QMS)の向上

法令を遵守し、事業部・関係会社単位でISO9001品質マネジメントシステムを構築し、品質保証活動を展開しています。2017年度から進めていたISO9001の2015年版改訂への対応は完了しました(7事業部、関係会社1社)。

また、国内3工場と海外3工場の監査を実施するとともに、内部監査員養成教育の継続、品質情報の見える化向上に取り組まれました。

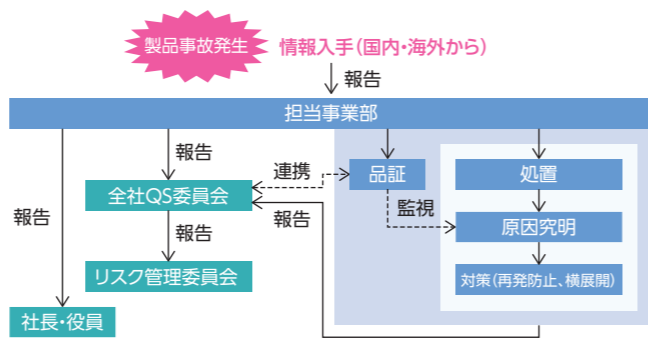
製品安全への取り組み

お客様の安全を確保するために、関連法規制の遵守や、お客様への積極的で誠実な情報開示に取り組んでいます。

製品事故時の対応

自社製品の事故情報を各部門に報告し、調査、対策および、全社QS委員会にて全社的施策の推進をしています。

製品事故などへの対応体制



計画の進捗結果

- IoT+mプラットフォームの中核となる標準見える化ツール(ダッシュボード)の商品化 ▶ machiNetを発表
- 国内外顧客への技術および製品情報提供 ▶ 「東芝機械技報」年1回発行
- 各種スクールを開講 ▶ 491名参加

技術・サービス



東芝機械グループは、経営理念である「メカトロニクスとシステムの分野を中心に技術革新を進め、産業の基盤づくりに寄与し、豊かな価値を創造します」に基づき、世界中のお客様に満足していただける製品、システムおよびサービスを提供します。

IoT+mプラットフォームの中核となる標準見える化ツール(ダッシュボード)の商品化

計画の進捗結果 ▲

IoT+mを実現するためのプラットフォームとして新たに「**machiNet**(マシネット)」を発表しました。スマートマニュファクチャリングに向けた、標準見える化ツール(ダッシュボード)を含むIoT関連機能が搭載されたパッケージ製品として、エッジコンピュータの提供を計画しています。

また、IoT+mのコンセプトに合致したベンダー様との「IoT+mパートナー会」を発足し、お客様からのIoTに対する高度な要求に対応するために活動しています。



国内外顧客への技術および製品情報提供

計画の進捗結果 ○

年1回「東芝機械技報」を発行し、東芝機械グループの技術および新製品に関する情報をお客様に提供しています。2018年5月に発行した第26号では、「自動車の先進化に向けて」という特別記事で自動車産業への取り組みを紹介するとともに、技術報告8編と新製品ニュース6編を掲載しました。本書は、「東芝機械グループソリューションフェア2018」ご来場者などに配布し、国内外のお客様へ情報発信しました。また、第26号より和文と英文を別冊としました。

各種スクール受講者の声

東芝機械製品をお買い求めいただいたお客様へ、経験、レベル、目的に応じた各種スクールをご用意しています。

射出成形機<<ISスクール>>

- 成形条件表を見て理解できない項目があったが、今回の受講で成形工程の理解だけでなく、実際にオペレーションできる自信がいった。
- テキスト内容も分かりやすく、成形機の画面を全て掲載していたので家でも勉強でき大変役に立った。実習も少人数で実機を使うことができたので自分で考えながら実習できた。

ダイカストマシン<<DCスクール>>

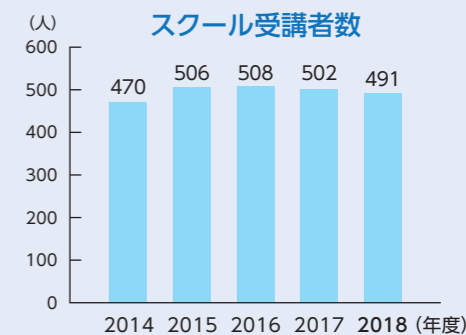
- 初心者にも非常にわかりやすく、とても参考になった。仕事をする際にイメージがしやすくなった。初めて知った事もあり、参加して非常に良かった。
- 講義が非常に分かりやすく大変参考になった。今回のスクールで基本的な製造方法が理解できた。

工作機械<<NCスクール>>

- Gコードが多くて理解する事が大変だが、親切に教えていただき、1日も早く使いこなせるように頑張りたいと思った。
- 感覚やルーティンワーク的にこなしていた作業を理論的に再確認できたのが良かった。

産業用ロボット<<ロボットスクール>>

- テキスト・授業共に分かりやすく、ストレスなくスムーズに理解できたので、とても良かった。
- ロボットの専門用語が理解しやすく、プログラム通りにロボットを自在に操ることができて楽しかった。





調達・取引先とのかかわり

東芝機械グループの資材部門はCSR調達を推進するために、環境保全、調達基準、遵法を3大要素として取り組んでいます。



計画の進捗結果

新EDIシステム取引先数向上
▶ 55社新規導入

教育／監査
▶ 年4回実施269名参加/年12回実施

グローバル調達
▶ 中国・タイ・インド・アメリカ



株主・投資家とのかかわり

さまざまな情報発信・相互交流を通じて、株主・投資家の皆様に東芝機械グループへのご理解を深めていただくよう努めています。

計画の進捗結果

機関投資家との対話機会の拡充
▶ IRミーティングを119回実施

投資家情報HP掲載コンテンツの充実
▶ 優秀サイト224位/3,785社

ディスクロージャーポリシーの策定
▶ ホームページでの公開

グリーン調達

東芝機械グループは、「かけがえのない地球」環境を、健全な状態で次世代に引き継いでいく」という考えに基づき、環境に調和した商品づくりのため、その一環として環境負荷の少ない製品・部品・材料・原料の調達(以下、グリーン調達)を推進しています。

資材部門では「グリーン調達ガイドライン」を制定し、東芝機械グループの取り組み方針と調達にかかわる評価・判定基準を定め、サプライチェーン全体で環境に配慮した調達活動を実施しています。

環境保全活動を推進している取引先からの調達

環境保全に対する活動は、取引先の自主的活動であることを基本としますが、必要に応じ改善活動のお手伝いをしています。グリーン調達にあたっては、ISO14001外部認証取得をはじめとする環境に配慮した活動に取り組んでいる取引先から調達を進めています。

新EDIシステムによる環境活動推進

EDI(電子データ交換:Electronic Data Interchange)による取引で購買業務をシステム化し、電話・メール・FAX・郵送による取引先との伝票・書類等のやり取りを減らし、ペーパーレスにより送料・紙代を削減する活動を推進しています。

2018年度は新規取引先を含め55社の取引先が新たにこのシステムを導入しました。

調達基準

人権に関する国際規範を理解し、基本的人権を尊重することをはじめ、調達活動の基本方針などを定めた「東芝機械グループ行動基準」にのっとり活動しています。

調達活動に関する手続きは、「購買管理規程」に定めて所定の調達部門が実施しています。

『東芝機械グループにおける資材調達方針』は、ホームページをご参照ください。

<https://www.toshiba-machine.co.jp/jp/company/shizai/index.html>

遵法

遵法対応は「購買管理規程」に購買活動の基本を定め、全グループ会社従業員に遵守徹底を教育しています。

教育と監査

- 社内遵法教育の実施(年4回実施 269名参加)
- 調達内部監査の実施(年12回実施)
- 社外講習会などへの参加(都度)



リスク管理

全社リスク管理の中で、リスクマネジメントを実施し対応しています。

取引先通報制度

「取引先通報制度」をホームページに設けています。
<https://www.toshiba-machine.co.jp/jp/company/shizai/partnerline.html>

グローバル調達

海外生産拠点が保有する調達情報を一元化し、納期・品質・価格において、最も適した調達品を特定するための仕組み「グローバル調達ネットワーク」を構築しています。東アジア、東南アジア市場において「地産地消体制」を確立し、「最適調達網」を活用することで、原価低減を図ります。

2018年度は中国・タイ・インド・アメリカの海外拠点において、購買業務の運用状況を自己評価して改善活動を実施しました。

機関投資家との対話機会の拡充

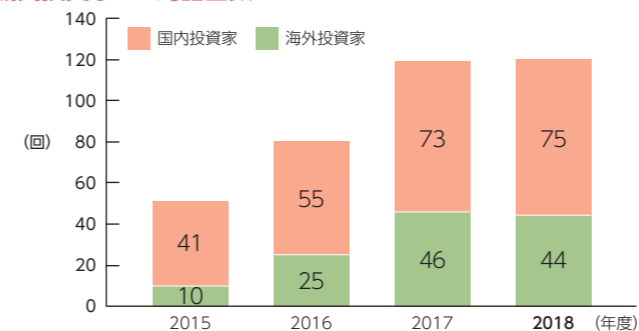
コーポレートガバナンス・コードの強化に伴い、機関投資家の皆様を対象に、東芝機械グループの持続的企業価値向上を目的としたIRミーティングを決算発表後に適時実施しています。

2018年度は昨年に比べ、投資家からのミーティング依頼は減少しましたが、当社から海外投資家を中心に対話の呼びかけを行なった結果、IRミーティングを119回実施し、当社の状況を正しくご理解いただくとともにご意見をいただきました。また、工場見学を2回実施し、生産現場をご覧いただくことでBtoB企業の業態を分かりやすく紹介しました。

また、役員による海外IRを継続し、アジアの機関投資家8社と当社理解深耕に向けた対話を実施しました。



機関投資家との対話回数



情報開示の基本方針

東芝機械は、株主・投資家や取引先、地域社会などのさまざまなステークホルダーの皆様にご理解いただくために、経営理念、行動基準、決算情報、財務情報など企業情報の適時・適切な開示に努めています。

また、重要な会社情報が生じた際に、迅速・正確・公正な情報開示を行なっています。

投資家情報HP掲載コンテンツの充実

株主ならびに投資家の皆様に当社へのご理解を深めていただくため、ホームページ(以下HP)上で投資家情報サイトを運営し、市場動向や外部調査などを基に、適時・適切な情報更新に努めています。

2018年度はHP掲載情報の見せ方を整理すると共に、投資家から要望の多かった業界傾向推移情報の数値データを事業部ごとに分けた開示を開始しました。また、これまでのHP内容充実が認められ、日興アイ・アール株式会社の全上場企業ホームページ充実度ランキングにおいて優秀サイト(224位/3,785社)に選出されました。



ディスクロージャーポリシーの策定

投資家への等しい情報開示が求められる中、株主・投資家の皆様に対する情報開示の指針としてディスクロージャーポリシーを18年9月に新たに定め、HPでの公開を開始しました。

『ディスクロージャーポリシー』は下記URLをご参照ください。

<https://www.toshiba-machine.co.jp/jp/ir/DisclosurePolicy.html>

常時SSL化への対応

HPの改ざんやなりすまし、悪意ある第三者からのHP訪問者の個人情報やログイン情報の盗聴を防ぐ安全なHP運用が問われる中、当社は、18年9月からグループ会社も含めて常時SSL化への対応(HTTP→HTTPS)を実施し、訪問者が安心して閲覧できる環境を構築しました。



従業員とのかかわり

東芝機械グループは、「強み」を持った人財を育成するをコンセプトに、従業員の能力開発、人財育成を通して公正な評価、処遇を行ない、働きがいのある職場づくりに努めています。

計画の進捗結果

海外現法研修の実施

▶ 3名参加

心とからだの健康づくり

▶ 健康イベント、各種健康教育実施

従業員への安全指導・支援

▶ 安全指導・支援実施

人財育成



教育体系

東芝機械グループは日常業務を通じたOJTのほか、全社共通に、または職種に応じた専門分野ごとに幅広い教育・研修を実施し、各自が能力を最大限に発揮し、成果につながることを目指しています。

また、新入社員から役職者・ベテラン社員を対象とした、グローバル人財育成、コンプライアンス教育、技術・技能の向上と伝承、自己啓発などの人財育成にも努めています。

グローバル人財育成

計画の進捗結果 ○

海外現法研修

グローバル市場で活躍できる人財の育成を目指して、2018年9月3日～8日まで中国の現法にて研修を実施し、3名が参加しました。

研修では、各部門の職場体験や協力会社の工場見学、営業活動への同行などを通して現地従業員と交流を図り、中国文化や現法についての理解を深めました。



研修の様子

VOICE



制御システム営業部

大久保 泰地さん

現法従業員とのつながりができたことが大きな収穫でした。言葉がわからなくてもなんとなくかなる体験を通し、海外生活の自信ができました。

工作機械技術部 第一技術担当

築地 輝顕さん

現法従業員の積極性や改善意識など見習うべき点が多くありました。今回の研修を生かし、今後はより自己研鑽に努めたいと思います。

東芝電機株式会社 ロボット製造課

小島 圭祐さん

今回初めての海外出張でした。文化や言語の違いに戸惑いましたが、現法従業員に支えられ、貴重な体験をすることができました。

▲研修最終日(左から大久保さん、小島さん、築地さん)

英語学習受講者交流会

マンツーマンで行なっている駐在型英語教育の研修の一環として、受講者同士で交流を図るため、2018年7月23日に英語学習受講者交流会を実施しました。

「無人島に1つだけ持っていくとしたら何か」というテーマを通して英語でディスカッションするなど、学習の成果を発揮し、お互いに刺激を受ける機会となりました。

当時、沼津工場に実習中のインド現法の従業員2名も一緒に参加し、交流を深めることができました。

※駐在型英語教育…半年間にわたってネイティブ講師が社内へ常駐し、1週間に1回マンツーマンの英会話レッスンを受講できる制度(2018年度受講者62名)。



ダイバーシティとインクルージョンの取り組み



人権尊重の方針

東芝機械グループは、「東芝機械グループ行動基準」を定め、そのもとで基本的人権および個人の多様性を尊重し、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現を支援することを方針としています。

- 各国・各地域の法令等を踏まえ、人権に関するさまざまな国際規範を理解し、基本的人権を尊重します。また、児童労働、強制労働を認めません。
- 東芝機械グループにおいて、基本的人権を侵害する行為があった場合には、適切な措置を講じます。また、調達取引先においても、基本的人権を侵害する行為が認められる場合は、改善を求めています。
- 人権尊重のため、関連するステークホルダーと対話を進めます。
- 創造的、効率的に業務を遂行できる環境を整え、ワーク・ライフ・バランスの実現を支援します。
- 安全で快適な職場環境を実現するよう努めます。

ダイバーシティへの対応

計画の進捗結果 ○

育児・介護に関する制度と活用状況

過去5年間に於いて、女性従業員の育児休業取得率は100%であり、育休からの復職率もおおむね100%を達成しています。また、短時間勤務制度、本人からの申し出によって残業を免除する制度の他、積立保存休暇の利用目的に「看護」を追加し、ワーク・ライフ・バランスを支える制度を整えております。

育児・介護休業法改正に伴う育児短時間勤務制度の拡充、介護短時間勤務制度の導入により、育児短時間勤務については、従業員も有効に活用しています。

育児と両立しやすく長期継続しやすい仕事環境

2018年度の平均勤続年数は19.2年(男性:19.0年、女性:20.6年)^{※2}であり、長期にわたり腰を落ち着けて働く従業員が多いことが当社の特徴となっています。

※2 東芝機械(株)のみ

多様な人財の活躍推進

性別、国籍、年齢等にとらわれない人物本位の採用、各人の適性に合った適材適所の職場配置を推進しています。

2016年度より、国内関係会社5社を含むデータです。

年度	2014	2015	2016	2017	2018
育児休業取得者()内は男性	4	3	7(1)	5(1)	9(2)
育児休業復職率	75% ^{※1}	100%	100%	100%	100%
介護休業取得者	0	1	0	0	0
短時間勤務制度利用者(育児)	3	2	5	9	10
短時間勤務制度利用者(介護)	-	-	0	0	0

※1 海外帯同に伴う自己都合退職1名

年度	2014	2015	2016	2017	2018
退職者()内は女性	15(4)	18(1)	35(6)	32(2)	43(7)
うち、出産・育児を理由とした退職者	0	0	1	0	0

年度	2014	2015	2016	2017	2018
外国人従業員	10	10	11	12	13



安全と健康

安全と健康管理は経営の基盤であり、その機能を強化するため、今後も、全グループ一丸となって活動の活性化を図ります。

従業員の意識高揚を図るための安全・健康教育の実施

計画の進捗結果 ○

労働災害の発生状況とその防止

東芝機械グループの労働災害発生件数は、全国の全産業・製造業と比較すると低い水準で推移していますが、2018年度も「ゼロ災」の達成には至りませんでした。

2019年度は災害ゼロに向け、安全衛生活動に積極的に取り組み、「安全第一」を最優先に安全・安心な職場環境づくりを推進します。

労働安全衛生マネジメントシステムの推進

安全と健康の確保は企業活動と不可分の関係にあることを認識し、労働災害の防止と健康づくりに努めるとの理念により、沼津・相模工場では「OSHMS」[※]の適格認証を取得、またグループ各社でも「OSHMS」手法を水平展開し、安全衛生管理水準のレベルアップを図っています。

※ JISHA方式適格労働安全衛生マネジメントシステム

心とからだの健康づくり

東芝機械グループでは、すべての従業員が自らの心身の健康を維持しながらその能力を十分に発揮できるよう「心とからだの健康づくり」に取り組んでいます。



健康診断の有所見者やメンタルヘルス不調者には、産業医・看護師による個別保健指導や個別面談を行なうとともに、全従業員の「心とからだの健康」意識向上のため、健康イベントや各種健康教育を実施しています。

海外駐在員や海外出張者には、現地の衛生状況を踏まえた健康教育や医療情報提供のほか、医療・危機管理アシスタンスプログラムを導入し、安心して働けるよう配慮しています。

従業員への安全指導・支援

安全衛生に関わるスタッフは、一定の教育を実施する講師の資格を取得し、作業員に対し各種教育を実施しています。各種特別教育等を社内展開しながら安全衛生の意識向上を図っています。

安全管理部門だけに限らず、各事業部から選任された監督者を安全人財として外部教育機関を活用しながら、自職場の安全管理や職場環境改善の役割を果たす取り組みをしています。





地域社会とのかかわり

地域社会との連携と協調を図るという事業行動基準に基づき、地域社会へのさまざまな協力活動を行なっています。また、自治体や公益法人、NPOなどが運営している各種協議会へ積極的に参加しています。

計画の進捗結果

- 社会貢献への取り組み
▶ 合計1,001名参加、寄付金20,020円
- 教育・文化への取り組み
▶ 中学生2名参加
- 環境への取り組み
▶ エコカー導入率36.3%

社会貢献への取り組み

計画の進捗結果



献血活動

赤十字血液センターが行なっている献血に協力しています。2018年度は、沼津・相模・御殿場工場で各年2回実施し、170人が献血に協力しました。



TABLE FOR TWOへの参加

沼津本社では、2018年度から持続可能な開発目標SDGsの新たな取り組みとして、TABLE FOR TWO(以下TFT)へ参加しました。

TFTとは、TFTメニューを当社食堂で食事することにより、食事金額に含まれている20円が寄付金として、開発途上国の子供の給食1食を賄うことができる、開発途上国と先進国双方の人々の健康を同時に改善することを旨とする、日本発の社会事業です。この取り組みへの参加は、SDGsの7つの目標に貢献するだけでなく、TFTを通じて従業員にSDGsへの取り組みの重要性を周知することができる、極めて有意義な活動となります。今後はTFTの活動回数の増加、御殿場工場、相模工場での取り組みについても計画していきます。

実施日	メニュー		参加人数(人)		寄付額(円)	
	名称	価格(円)	小計	小計	小計	小計
18.12/21	ヨーグル豚生姜焼きプレート	550	151		3,020	
19.01/18	大地のハーブ電田揚げプレート	450	150		3,000	
19.01/31	豚肉炒め旨辛ダレプレート	400	180		3,600	
19.02/15	和風ビーフハンバーグプレート	550	180		3,600	
19.03/01	手付け豚ヒレカツプレート	500	160		3,200	
19.03/15	チキンのハーブパン粉焼きプレート	400	180		3,600	
	合計		1,001		20,020	



めまづフリーマーケットフェスティバル&消費生活展への参加

『不要となった使える物を、必要とする人へ』、リユースによるエコの意識を高めようと沼津市主催のフリーマーケットへ静岡県廃棄物協会の会員企業とともに供出品を提供し、売上金を寄付しています。

また、当日開催される「めまづエコ活動コンテスト」に協賛し、地球温暖化防止や環境保全への取り組みを応援しています。



資格取得事業への協力

(公社)静岡県労働基準協会連合会が実施している各種技能講習では、実技会場の提供、および技術指導員の派遣に協力しています。

2018年度の実績

- フォークリフト技能講習 3回
- 床上操作式クレーン技能講習 6回
- 玉掛け技能講習 6回
- クレーン運転業務特別教育 3回



教育・文化への取り組み

計画の進捗結果

中学生職業体験

未来の「モノづくりの担い手」となる子どもたちの、望ましい勤労観、職業観を育む体験活動の場を提供しています。2018年は近隣中学校の学生2名が2日間の体験学習に参加しました。



蔵前理科教室

児童の理科に対する興味を呼び覚ますことを目的として活動している(一社)蔵前工業会は、全国で科学原理をテーマとした寺子屋方式の出前理科教室を開催しています。「くらりか」への支援を通じて、未来の科学者たちを育てる活動を支援しています。



当社OBが講師を務め、子供たちが電気の性質について実際に目で見て体感し、仕組みを理解しながらモーターを作るなど楽しく学びました。

夏休み親子工場見学会

御殿場市主催の「第23回夏休み親子工場見学会」は、生涯学習とキャリア学習の一環として、小学3年生以上の親子が普段見ることのできない市内の工場を見学し、工業や工場について見聞を深めてもらうことを目的としています。

この取り組みに当社は見学会場として協力しました。



環境への取り組み

計画の進捗結果

緑のカーテンづくり

6月に植えたゴーヤやキュウリなどのツルが伸びて窓を覆い、建物内の温度上昇を抑える自然のカーテンになります。植物の蒸散作用(葉の表面から水分が蒸発すること)により周囲の気温も下がり、身近な地球温暖化防止対策として毎年継続しています。



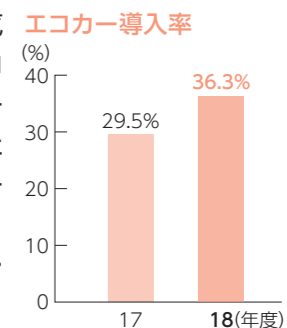
環境美化ボランティア活動の実施

地域社会や環境への貢献、美化意識の向上を目的とした工場周辺地域の清掃活動を、毎年実施しています。2018年度は、関係会社を含む10拠点で、従業員とその家族1,072名が参加し、清掃活動に取り組みました。



社有車および自家用車における取り組み

2018年度は、社有車に電気自動車1台を含む36台のエコカーを導入し、東芝機械グループのエコカー導入率は36.3%となりました。また、5月にはノーカーデー(マイカー通勤の自粛)を2日設定し、環境負荷の削減・低減に取り組みました。



環境への取り組み

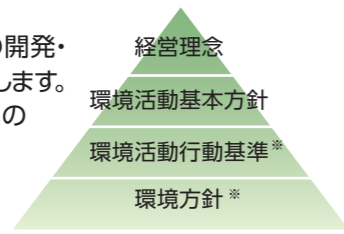
東芝機械グループは、経営理念・行動基準に基づき、企業の社会的責任(CSR)として、法令遵守・環境調和型製品の提供・事業活動に関わる環境負荷低減に取り組み、持続可能な環境づくりに積極的に貢献します。



環境マネジメント

環境活動基本方針

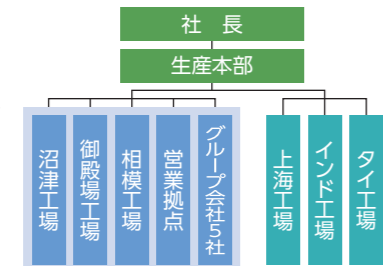
1. “かけがえのない地球”を、健全な状態で次世代に引き継いでいくための環境づくりに積極的に貢献します。
2. 環境に関する国際規格、関係する法令、協定、指針、自主基準等を遵守します。
3. 優れた環境調和型製品の開発・提供を通じて社会に貢献します。
4. 事業活動に関わる環境への負荷の低減、生物多様性の保全等に積極的に取り組みます。



*環境活動行動基準・環境方針についての詳細は当社ホームページをご参照ください

環境マネジメントシステムの強化

グループ体となった取り組みを実施するため、国内では1996年に沼津工場ISO14001の認証を取得して以来、生産拠点、営業拠点、グループ会社について認証範囲の統合と拡大を進め、環境マネジメント体制の強化を図っています。海外では2004年に上海工場、2012年にインド工場、2015年タイ工場が認証を取得しました。またISO14001 2015年度版の移行にも取り組み、2017年度に完了しました。



国内ISO14001システム範囲 海外生産拠点

環境マネジメントの有効活用 計画の進捗結果

東芝機械グループではISOの要求事項を運用レベルまでブレイクダウンした「環境マニュアル」を規定し運用しています。2018年度はISOの浸透と理解を深めるため、環境マニュアルを改訂しました。2019年度はマイクロプラスチック問題解決への貢献活動とし、マイクロビーズ入り手洗い洗剤を環境に優しいものに切り替えていきます。今後も環境マネジメントシステムを有効活用し、事業活動に沿った環境活動を進めていきます。

環境法令の遵守と、環境事故・苦情対応

各生産拠点では、法律の規制よりも厳しい自主管理基準値を設定し、大気・水域への有害物質排出による環境事故を未然に防ぐよう努めています。また、環境施設の巡視による管理状況の確認を行なうとともに、届出や報告、基準の遵守などは、内部監査時、適正に行なわれていることを確認しています。法規制の動向などについては、グループ内で情報を共有しています。2018年度は廃棄物の処理および清掃に関する法律、土壌汚染対策法、気候変動適応法等の法令改正を共有化しました。また、法令の管理レベルの向上を図るため、環境関連資格の積極的な取得にも取り組んでいます。2018年度は苦情等はありませんでした。

環境内部監査

各事業部で監査チームを結成し、相互監査の形式で約2ヶ月かけて環境内部監査を実施しています。内部監査員養成教育を実施し、監査員の確保、スキルアップに努めています。2018年度は指摘件数が75件ありました。過去の指摘事項に対する是正が定着していない例が数件ありました。2019年度は真因に基づいた歯止めがなされているかに重点をおき監査を進めていきます。



監査員養成教育の様子

環境教育・訓練 (国内)

階層別教育と職能別教育のそれぞれに対応した教育や訓練を実施しています。経営層向けとしては外部講師をお招きし、最新の外部状況について講演会を開催しています。2018年度は「ESG投資の昨今の動向について」をテーマに講演いただき、社長以下77名が出席しました。また、工場からの汚染物質の流出など、緊急時に備えた訓練を各部門で実施し、不測の事態に備えています。



環境講演会の様子

計画の進捗結果

環境マネジメントの有効活用 ▶ 「環境マニュアル」を規定

環境会計

企業の事業活動に関わる環境保全活動のコストと効果を定量的に把握し、企業活動の指針として活用するため、環境会計を実施しています。

2018年度の環境保全コストは、設備投資として14,182千円、費用として1,179,420千円を投入しました。一方、効果額は、47,790千円となりました。

環境保全コスト

単位:千円

分野	内容	投資	費用	
事業エリア内コスト	①公害防止コスト	大気、水質、土壌汚染防止など	0	61,568
	②地球環境保全コスト	温暖化防止、オゾン層保護など	14,165	12,106
	③資源循環コスト	資源の有効利用、廃棄物減量化など	0	104,785
上下流コスト	グリーン調達、リサイクルなど	0	13,791	
管理活動コスト	監視・測定、環境教育など	0	105,094	
社会活動コスト	緑化、情報開示など	17	6,403	
環境損傷コスト	土壌汚染修復など	0	95	
合計		14,182	1,179,420	

集計対象:東芝機械本体および国内関係会社5社 対象期間:2018年4月1日~2019年3月31日

環境保全効果

単位:千円

分野	内容	環境負荷低減量*	効果金額	効果金額の算出方法
実質効果	エネルギー(原油換算)	317kl	79,985	前年度に対し、電気料金や廃棄物処理費用などの節約または改善効果金額と有価物売却益の合計。
	廃棄物	-256t	2,710	
	用水	225千㎡	-9,652	
みなし効果	排水関係(BOD, SS, 油分 N-HEX)	85kg	-25,253	環境法令基準とACGIH-TLV(米国産業衛生専門家会議で定めた物質ごとの許容濃度)を基に、カドミウム換算した物質ごとの重み付けを行ない、カドミウム公害の賠償費用を乗じた金額を算出。大気・水域・土壌などへの環境負荷の削減量を金額換算して表示することで、異なる環境負荷を同一の基準で比較。
	大気関係(ばいじん、窒素酸化物、硫黄酸化物)	506kg		
合計			47,790	

*環境負荷低減量は、2017年度と2018年度の差分。マイナスは、環境負荷の増大を示します。

環境アクションプラン

COP21の国際協定締結結果と国内外の動向を参考に、海外生産拠点を含め、2016年から2020年までの5年間の中期目標「第1次環境アクションプラン」と、2030年を最終年度とする長期目標を設定しました。また、中期目標の重点テーマは、製品の環境貢献の明確化、グローバル対応の強化としました。

2018年度の取り組み結果は、以下のとおりとなります。

基準年:2013年度

取り組み項目(指標)	第1次環境アクションプラン		長期目標2030年度	
	2018年度	2020年度		
環境調和型製品の提供	環境調和型製品によるCO ₂ 削減貢献量拡大(t-CO ₂)	23,595 (183%)	25,390 (197%)	34,410 (267%)
地球温暖化の防止	CO ₂ 排出原単位削減(t/億円)	22.0 (▲20%)	19.8 (▲28%)	16.5 (▲40%)
資源の有効活用	廃棄物排出原単位削減(t/億円)	3.08 (▲10.5%)	2.84 (▲17.5%)	2.07 (▲40%)
化学物質の管理	化学物質排出原単位削減(kg/億円)	60.4 (▲21.6%)	68.9 (▲10.5%)	53.9 (▲30%)
グリーンマネジメント	生物多様性保全(生態系ネットワーク)	富士山植樹活動参加	ピオトップ国内各工場・植林	森林育成事業協調
	再生可能エネルギー(未利用エネルギー使用)	太陽光発電で使用量の0.1%を発電	使用量の0.1%	拡大(海外含む)、使用量の3%
	スコープ3の取り組み(上流・下流負荷の把握)	取り組み継続	環境負荷把握(海外含む)	削減活動
海外	グローバルなEMS構築(海外現法との連携強化)	タイ、インドインフラ調査実施	外部インフラ調査、海外環境内部調査、海外工場環境リーダー育成	
	管理強化と環境負荷低減(管理レベル向上)	3生産拠点で目標設定	調査、管理規定確立、目標設定	管理強化と削減推進

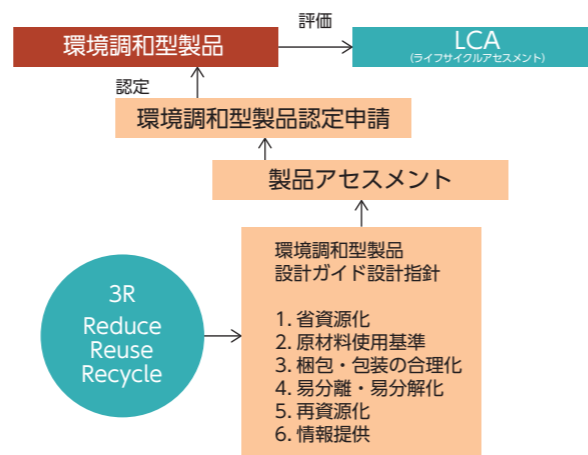
製品の環境配慮

東芝機械グループは、より環境負荷の少ない製品をお客様にご提供するために、環境調和型製品 (ECP) の開発を積極的に進めています。

環境調和型製品の開発

新製品の開発段階から、環境への影響を事前に評価する「製品アセスメント」を実施し、環境負荷の低減を図っています。技術部門では、設計指針と3Rを考慮した「環境調和型製品設計ガイド」に基づき、開発を進めています。

完成後に環境調和型製品認定申請書により評価を行ない、認定を受けた製品が環境調和型製品として登録されます。2018年度は、31機種が新規登録され、累計登録件数は556機種となりました。



環境調和型製品の紹介

二軸混練押出機TEM

二軸混練押出機TEMは、さまざまな産業・用途に使用されている混練装置です。近年、電気自動車(EV)のキーデバイスであるバッテリーにおいて、その構成要素の一つであるセパレータフィルム製造装置の一部として使用されています。



超高トルク型二軸混練押出機 SXシリーズ

許容トルク38%増加(SSシリーズ比)により消費動力を15%低減可能となります。

製品の環境負荷低減

環境調和型製品として登録されたすべての製品に対し、原材料、製造、輸送、使用、リサイクル、廃棄までの東芝機械グループ基準によるライフサイクルアセスメント(LCA)評価を行なっています。さらに、一部製品では従来機種との比較を行ない「CO₂排出削減量」*を算出しています。

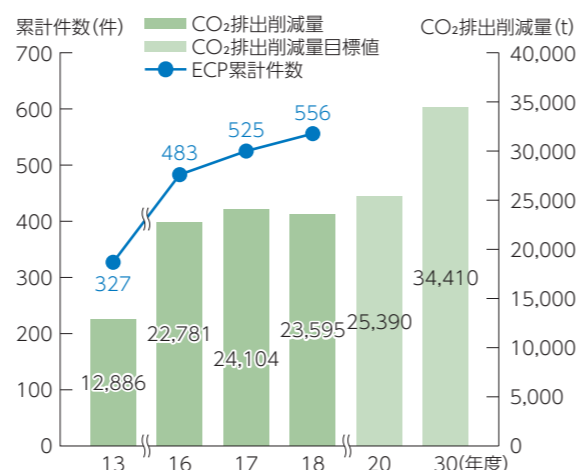
*従来機種から省エネルギー性能の高い環境調和型製品への置き換えにより削減できたとみなすCO₂排出量

製品の環境負荷低減への取り組みでは、2020年度の中期目標を「CO₂排出削減量25,390t」として活動を行なっています。2018年度は環境調和型製品の売上向上などにより、CO₂排出削減量は23,595tとなりました。製品のさらなる省エネルギー化に取り組み、中期目標達成を目指します。

製品使用段階のCO₂排出削減量への取り組み

東芝機械グループ製品は、長年使用していただける製品が多く、「製品使用段階のCO₂排出量」がライフサイクル全体のCO₂排出量の大部分を占めています。そのため、製品の省エネルギー性能を高めて製品使用段階のCO₂排出量を削減することが、製品の環境負荷低減に効果的です。

環境調和型製品(ECP)登録件数とCO₂排出削減量の推移



地球温暖化防止

エネルギー管理部門は、エネルギー効率のよい設備の導入や更新に向けた省エネチェックをはじめとする環境アセスメントを行なうとともに、他部門に対し、地下水の有効活用を含めた、これまでの取り組み事例や最新の省エネ技術に基づいた適切なアドバイスを実施し、積極的に地球温暖化に努めています。

2018年度は2013年度比CO₂売上単位*20%減の目標で取り組み、結果、20%減を達成しました。

*売上原単位：売上高に対するCO₂の排出原単位

重油バーナノズル口径変更による消費量削減

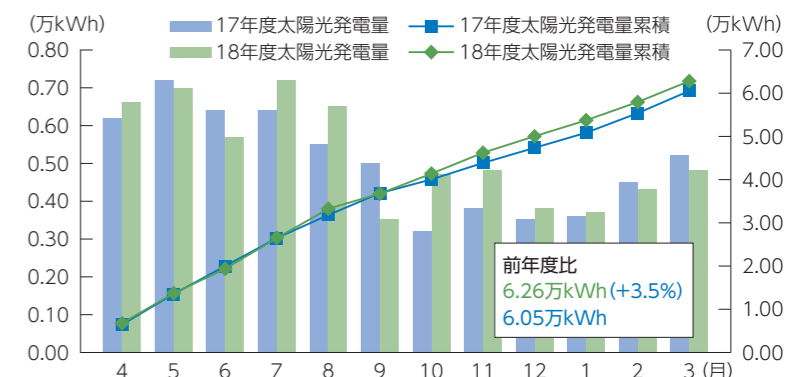
重油バーナノズル先端口径を1mmから0.9mmに変更し、温度調節器で運転ムダ時間を削減することで、暖房器の重油消費量を年間56kL(157t-CO₂相当)削減しました。



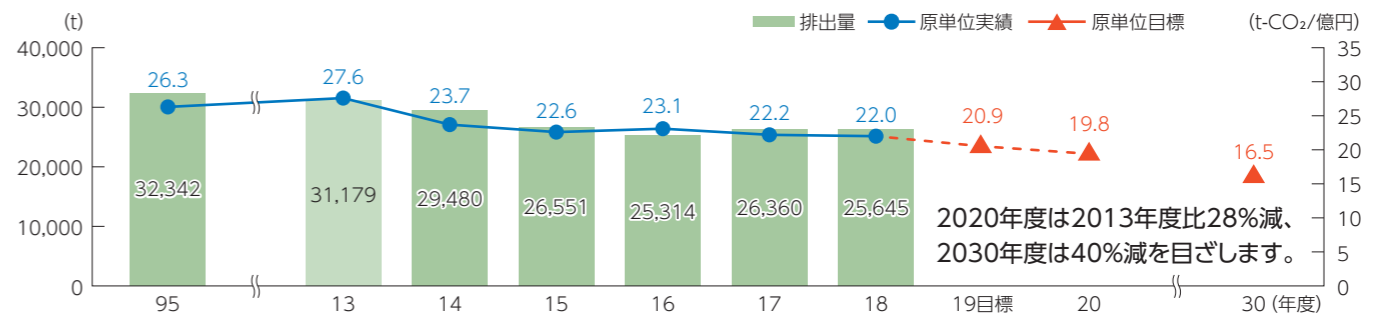
再生可能エネルギーの活用

2017年度から稼働している御殿場テクニカルセンターに設置した太陽光発電装置は、1年間で東芝機械国内グループの全電気使用量の約0.1%に相当する約6万kWhを発電しました。

発電した電力は、御殿場工場で自己消費するほか、緊急時は、緊急本社機能設置場所の非常電源としても利用します。



CO₂排出量と原単位実績、目標

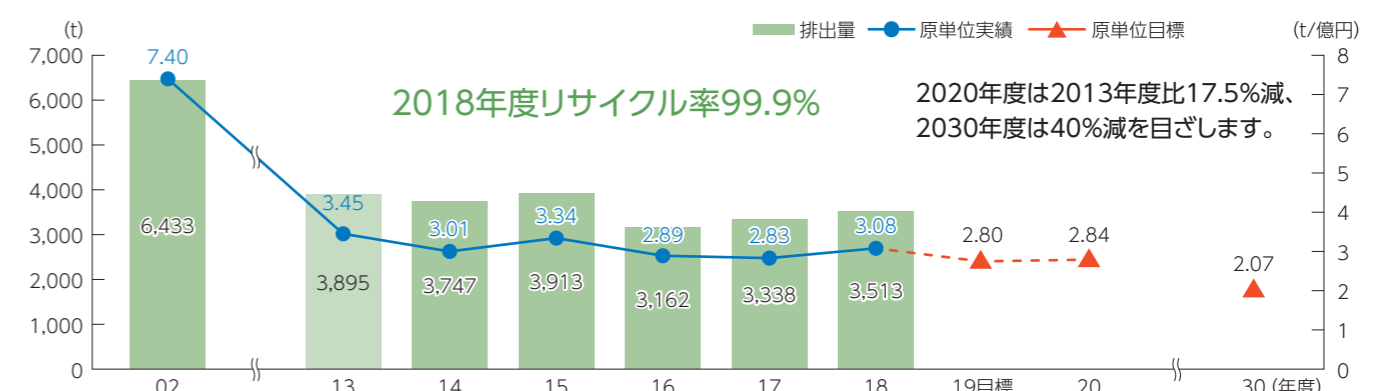


資源の有効活用

工場から排出される廃棄物の最終処分量1%以下を目指すとともに、環境アクションプランでは、2020年は基準年から17.5%の削減を目標としています。

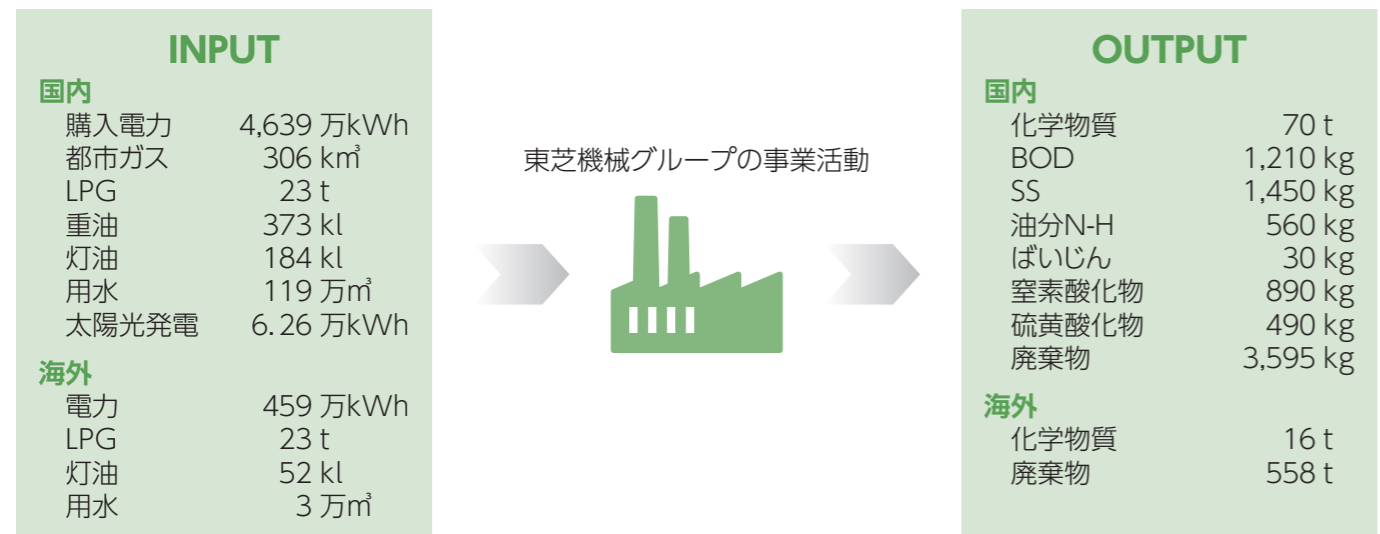
2018年度の廃棄物排出量は3,513tで、切削剤変更等による廃液・工場内保管エリア整流化活動による鋼くずの増加により175t増加しました。原単位評価では3.08t/億円となり2017年度の2.83t/億円から9%悪化しました。

今後は、工場内保管エリア整流化活動により発生した廃棄物は別管理で施策と結果が整合するよう管理していきます。

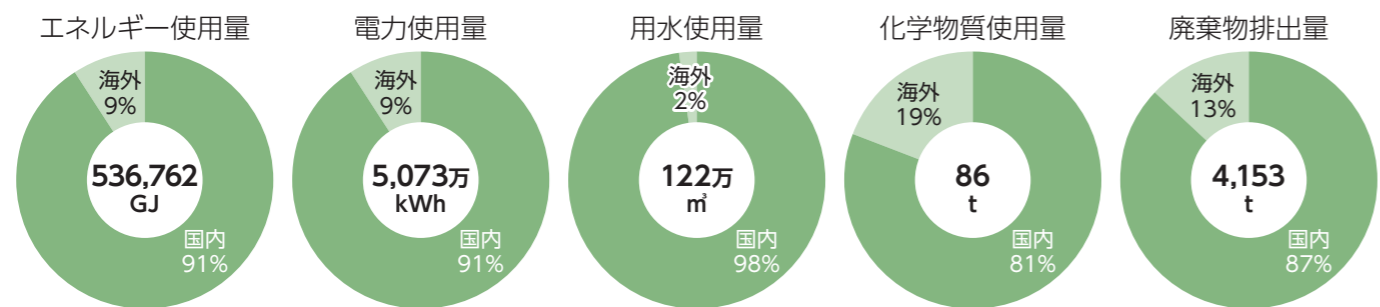


事業活動にともなう環境負荷

製品開発、製造、サービス活動など事業活動に伴う環境負荷について、継続的にデータを収集・分析し、環境負荷を低減する取り組みを積極的に行なっています。



国内工場と海外工場の環境負荷割合

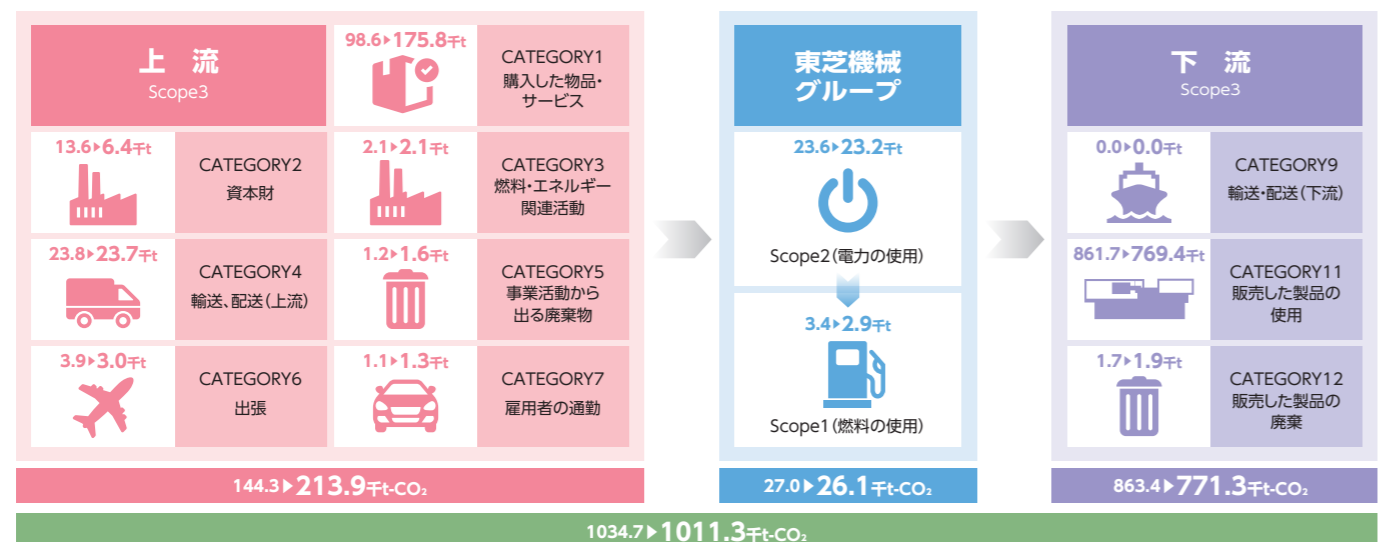


サプライチェーン全体の環境負荷

2015年度より、環境省のガイドライン^{*1}に基づく算定手法で、サプライチェーン全体のCO₂排出量の把握、算定をしています。^{*2}

^{*1} サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン
^{*2} 15カテゴリーのうちCATEGORY8、10、13、14、15は業種として該当しません

2017年度実績▶2018年度実績



汚染防止の取り組み

東芝機械グループの環境測定・分析について

東芝機械グループでは、工場から排出される汚染物質の測定・分析を関係会社である芝浦セムテックに委託し、日頃から継続的にデータを収集・分析しています。これらの結果は環境負荷低減のための取り組みに活用し、積極的に汚染防止に努めています。



測定・検査の様子

VOICE

芝浦セムテック株式会社

当社では、専門技術スタッフがさまざまな事業場の水質・大気・作業環境などの環境測定や材料分析を実施し、環境・品質の維持・改善に必要な情報を提供しています。また、環境関連機器の販売も行なっており、環境サポートのエクセレントパートナーとして、豊かな環境保全のために活動しています。

大気汚染物質

大気汚染物質の排出量は、ばいじん、窒素酸化物、硫黄酸化物とも大きな増減はありませんでした。各生産拠点では、省エネ活動を継続して実施し、沼津・相模・御殿場工場の鋳物溶解炉、ボイラー等全特定施設で、排出基準・協定値を下回っています。

騒音・振動・悪臭への対応

騒音・振動はグループ各社・工場の規制基準を全ての箇所・時間帯ともクリアしました。悪臭は規制された全ての対象工場境界で基準を満たしていることを確認しています。

水質汚濁物質

水質汚濁物質の排出量は大きな増減はありませんでした。沼津・相模・御殿場工場、不二精機製造所の生産拠点についても排水基準・協定値をクリアしています。

土壌・地下水汚染への対応

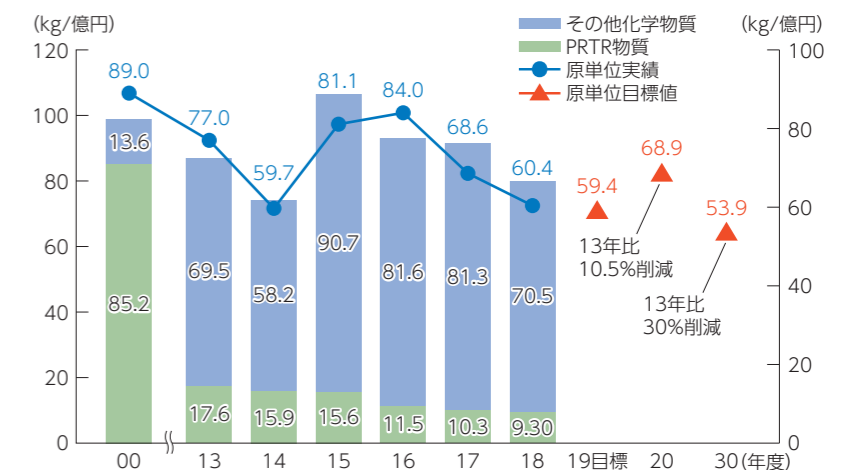
沼津工場第14工場の六価クロム汚染土壌について、周辺地下水のモニタリングを継続しており、汚染の拡大がないことを確認しています。

VOCの排出

VOC規制対象の沼津工場の塗装施設では排出基準、沼津市届出値をクリアした状況を保っています。静岡県内の光化学オキシダント緊急時対策実施要領にもとづき協力・連絡体制も構築しています。

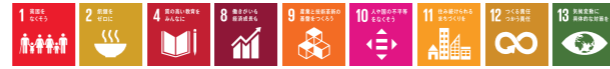
化学物質管理

PRTR対象物質の非含有塗料、シンナー類のリサイクル、塗料の水溶性化などへの転換、効率的な化学物質使用でPRTR対象物質と共に、化学物質の総量の削減に取り組んでいます。鉛については、プリント基板等のはんだ鉛フリー化を順次進めており、新製品は全廃しています。



計画の進捗結果

グローバルなEMS構築 ▶ 2018年度タイ工業区廃棄物管理表彰



生物多様性保全への取り組み

富士山の樹林活動

富士山ナショナルトラスト(NPO法人)が主催する、富士山御殿場口の植樹大会へ31名が参加しました。この活動は、宝永噴火によって大砂礫地となった富士山東南麓の崩壊を、緑化によって防ぐことを目的としています。



廃棄物の不法投棄撲滅活動

静岡県産業廃棄物協会による不法投棄パトロール、不法投棄撲滅街頭キャンペーンに参加し、ゴミの不法投棄撲滅、廃棄物不法投棄110番のPRを行ないました。

狩野川水系の河川清掃活動・あまご放流

狩野川水系水質保全協議会による河川清掃(黄瀬川)、あまごの放流(桃沢川)活動に参加しました。

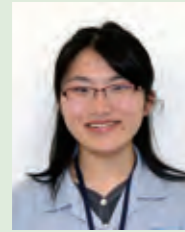


相模川の清掃活動

県央地域不法投棄撲滅キャンペーン(神奈川県)に参加しました。相模川グランドから座架依橋付近約2キロメートルにわたり、可燃ごみ、不燃ごみを回収しました。



VOICE



芝浦セムテック株式会社
環境測定部 環境測定課
渡邊 望 さん

植樹祭主催者の方々に、植樹祭に至るまでのさまざまな作業を伺い、世界遺産である富士山は、多くの方々の御苦労と熱い思いに支えられていることを知りました。
パッコヤナギが根付き、その日陰に先駆植物の草が進出し、草地になり、草地から草原へというスケールの大きな夢の一片を自分も担えた気がしました。あいにくの天気の中、短い時間でしたが、充実した時間を過ごしました。

グローバルなEMS構築

計画の進捗結果 ▲

東芝機械グループでは、海外生産拠点(上海・タイ・インド)でも環境マネジメントシステム(EMS)*の認証を取得し環境活動を管理しています。国を挙げて廃棄物管理を推進しているタイでは、2018年度に工業区の廃棄物管理表彰を受賞しました。インドでは、地域貢献事業として学校校舎の寄贈、工場周辺道路の舗装など立地している地域に根差した活動で地域に貢献しています。国・地域により重点となる取り組みが異なりますが、EMSの管理レベルの向上と日本からのガバナンス強化を継続して進めていきます。*企業活動などが引き起こす環境に対する影響を改善するため、効率的、効果的に実行する仕事の仕組み。

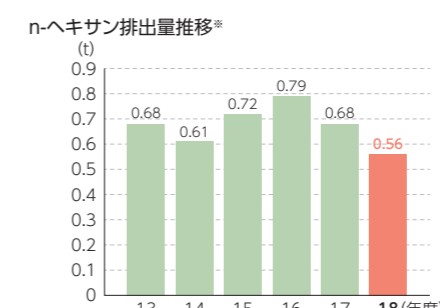
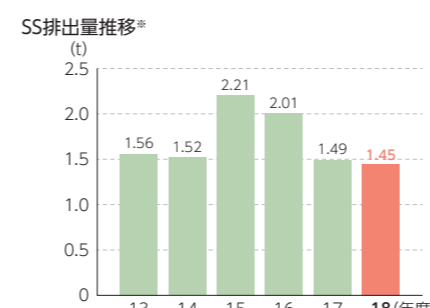
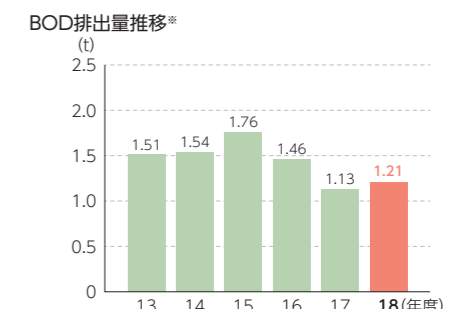
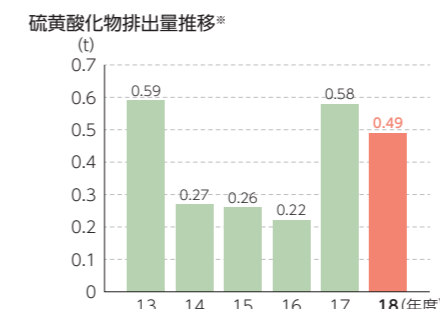
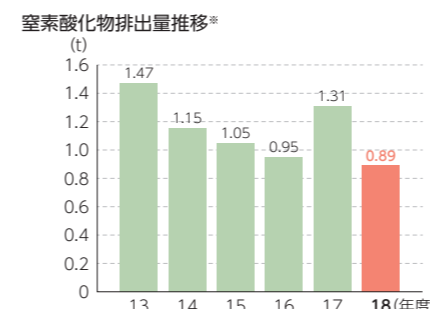
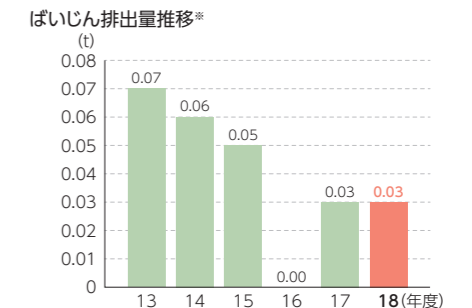
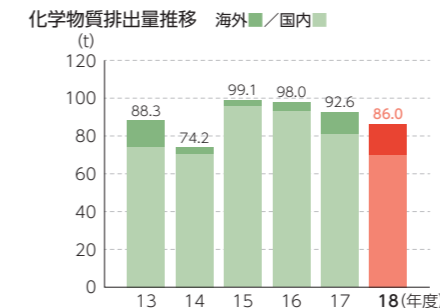
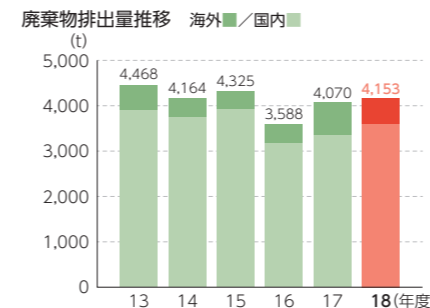
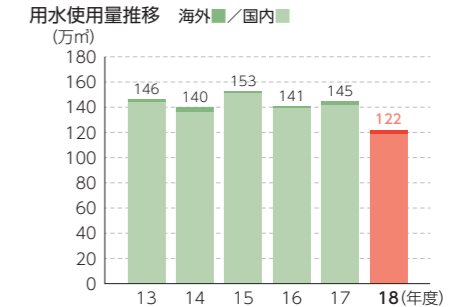
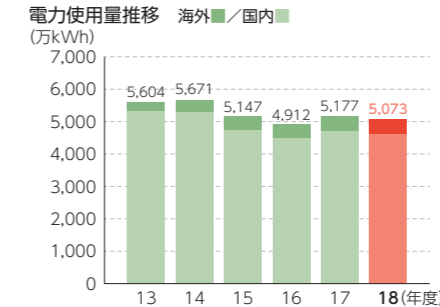
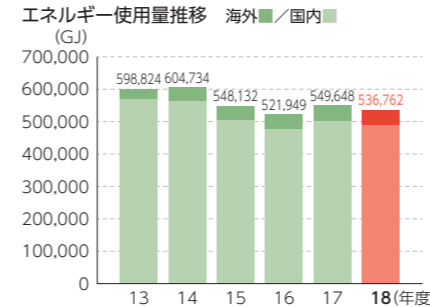


タイ工業区表彰



画像 ©2018 DigitalGlobe、地図データ ©2018 Google

INPUT OUTPUT グラフ



*国内のみのデータ

環境責任者ごあいさつ

上席常務執行役員 後藤 英一

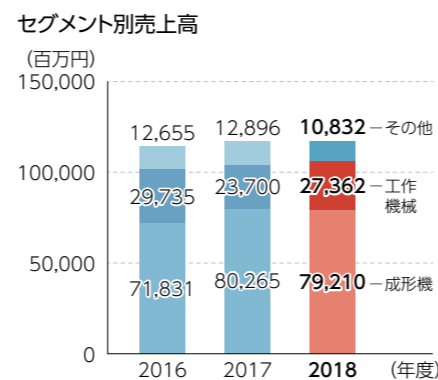
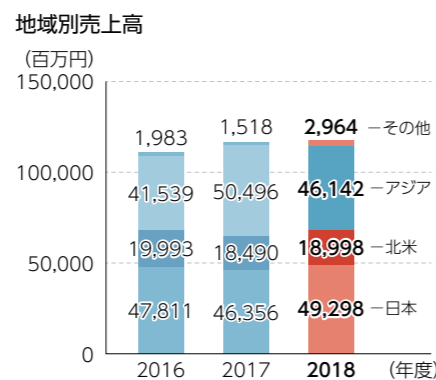
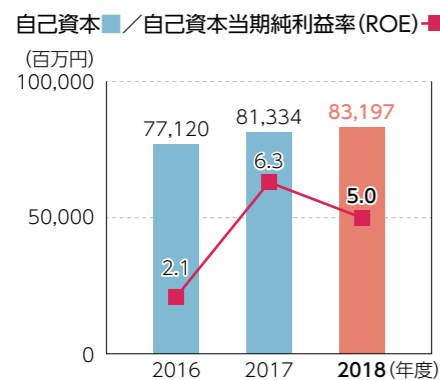
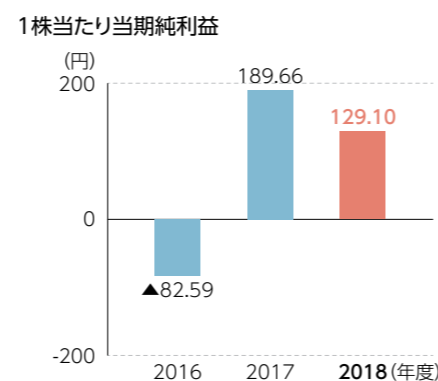
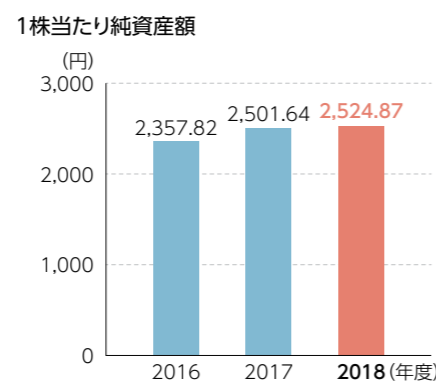
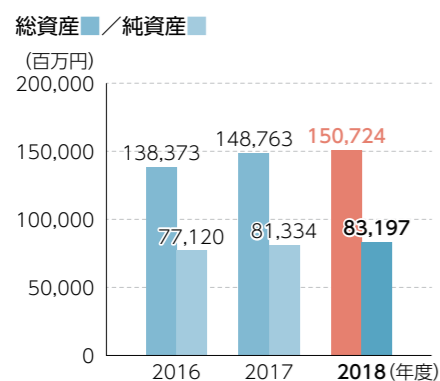
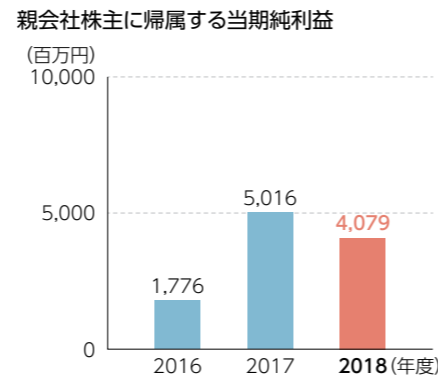
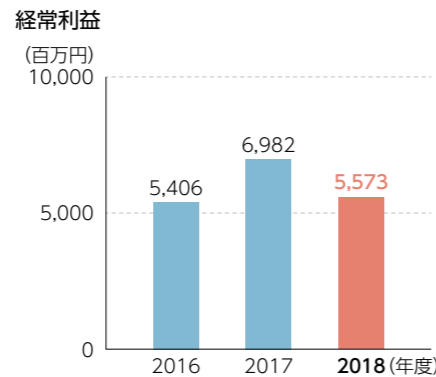
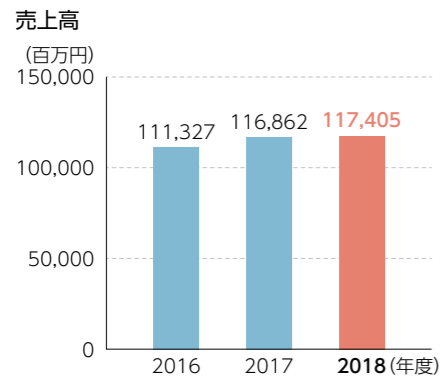
東芝機械グループは、経営理念・行動基準に基づき、企業の社会的責任(CSR)として、「かけがえのない地球」を健全な状態で次世代に引き継ぐため、「東芝機械グループ環境方針」を制定し、環境保全や資源保護に配慮した、自然環境にやさしい企業経営に取り組んでいます。

SDGsのゴール14に通ずる、プラスチックごみによる環境汚染が、現在深刻な問題として世界的に注目されており、2050年には海洋を漂うプラスチックごみが魚の量を上回るとも言われています。微細なプラスチックごみ「マイクロプラスチック」による生態系、人体への影響も懸念されています。プラスチック成形機の製造・販売を生業とする当社にとっては、無視できない社会課題です。一方、プラスチックごみ問題はリサイクル技術向上、リサイクル需要拡大、代替素材の開発など新たなビジネスチャンスも生み出しています。こうした環境・社会課題は単なる環境問題のひとつではなく「マーケット変化」と捉え、本業として真摯に向き合っていくことが重要です。

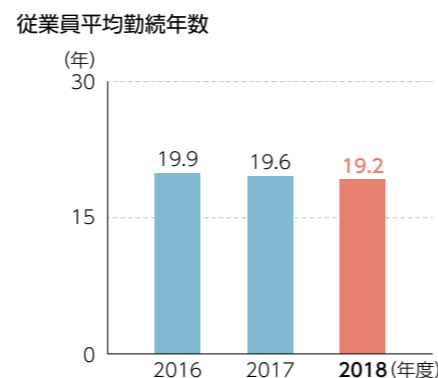
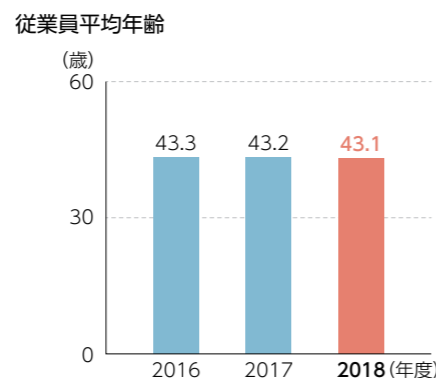
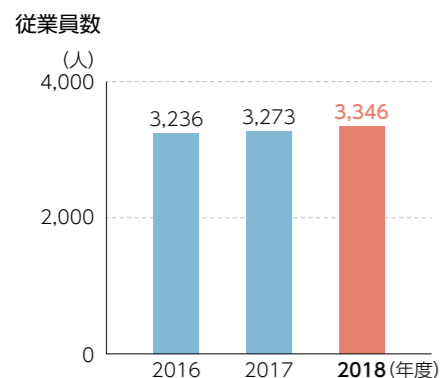
さらに全従業員が、社会の変化に対するアンテナを高く張って環境や社会課題に関する情報・動向を察知し、行動することで、企業の持続的成長・価値向上に寄与できるよう努めていきます。

財務・非財務ハイライト

財務情報



非財務情報



第三者意見



株式会社日本総合研究所
理事

足達 英一郎 氏

第7回目となる「CSR報告書」を拝見しました。トップインタビューにおいては、「モノづくりを通じて社会に貢献することで進化を遂げてきた」という自負、「体質改善、商品力の共有と強化、成長投資による企業価値の向上」に向けた決意、「高い倫理観と遵法意識の醸成を図る」という宣言が印象に残りました。実直に常道を歩むという御社の社風がよく反映されていると感じました。

「愚直に」、「真面目に」というキーワードは、「CSR報告書」全体のトーンにもなっています。ただ、一方でビジネス環境や技術環境が激変するなかで、未来を先取りする取り組みや複数の戦略からひとつを選択していくというダイナミズムに関連して、よりコンテンツを充実させていただきたいとも感じました。

昨年度の第三者意見において、自社の製品・サービスがSDGsの達成にどう貢献できるかを分析して開示することを提案しました。本号の19～20頁にはCSRの取り組みテーマとSDGsの関係性を整理いただいたことを感謝いたします。ただ、製品・サービスがSDGsの達成にどう貢献しているかについては、下段コラムにある限られた事例を知ることが出来るだけでした。

国連が、持続可能な開発目標(SDGs)を2015年9月に採択したとき、その記述を含む採択文書は、「Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development」とタイトルが付けられました。この内容として強調されているのは、「世界を持続的かつ強靱(レジリエント)な道筋に移行させるために緊急に必要な、大胆かつ変革的な手段をとる必要がある」ということでした。一例をあげれば「社会における生産や消費、サービスのあり方について根本的な変革をすることにコミットする」と書かれていま

す。読者として知りたいのは、「こうした変革を牽引している御社の製品・サービスはあるか」ということです。次号以降、是非、こうした情報開示に向けて工夫を凝らしていただきたいと思います。

さらに、SDGsの17の目標、169のターゲットを起点にして、製品・サービスのイノベーションを発想する思考にも挑戦して頂きたいと思います。プラスチックによる海洋汚染の問題は深刻度を深めています。射出成形機メーカーとしても問題解決への貢献の道筋をいち早く検討すべきでしょう。

特集の構成については、特集1が「東芝機械のあゆみ」となっていますが、やや過去の記述に偏り、未来志向の印象が薄いものでした。特集2は「IoT+m & machiNet」ですが、やや記述が抽象的で、どのような「顧客との共創価値」が生まれるかについてはイメージが掴めるものの、世の中に対する「社会価値の創造」について理解を深めることは簡単ではありませんでした。

個別の記述の中では、26頁に示されている退職者のデータが気がかりでした。定年退職者も含まれているのか、自己都合退職者の数の推移なのかを記述することが望ましいと考えますし、仮に後者であるとするその原因分析と対策は必須でしょう。同様に、32ページにある環境データにおいても、この数年、CO₂排出量、廃棄物排出量ともに負荷軽減が停滞傾向にあることが気がかりでした。ここでも、出来る限り原因分析と対策に関する開示を進めていただきたいと思います。

御社は、モノづくりの現場を支えるモノをつくるB to B企業であるという特性上、最終ユーザーが用いる製品をそのまま取り上げて社会課題の解決に貢献しているストーリーを語りにくい側面があることは理解いたしますが、次号にむけて「CSR報告書」の構成をバージョンアップすることもご検討下さい。

社会的責任投資のための企業情報の提供を金融機関に行っている立場から、本レポートを通じて理解した東芝機械グループの環境・社会・ガバナンス側面の諸活動ならびにその情報開示のあり方に関し、第三者意見を提出したものです。このコメントは、本レポートが、一般に公正妥当と認められる環境報告書等の作成基準に準拠して正確に測定、算出され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結論を表明するものではありません。

「ご意見を受けて」

「東芝機械グループCSR報告書2019」をご覧いただき、さまざまな角度からご意見をちょうだいし、ありがとうございました。足達理事のご意見にありましたように、結果が停滞気味であるところについては分析と対策に取り組んでまいります。東芝機械株式会社は、2020年4月から「芝浦機械株式会社」に社名変更いたしますが、新たな時代においても、豊かな価値を

創造し社会に貢献するとともに、健全な地球環境を守るための役割を果たし、皆様のご期待やご要望に応える企業を目指してまいります。私たちの進めるCSR活動につきまして、皆様の率直なご意見・ご感想がございましたら、ぜひお聞かせください。

本書への感想・ご意見

〒410-8510 静岡県沼津市大岡2068-3 東芝機械株式会社 総務部
TEL(055)926-5141 FAX(055)925-6501 <https://www.toshiba-machine.co.jp/form/inquiry.php?i=14>
※「製品・サービス以外についてのお問い合わせ」フォームに入力し、ご送信ください。